334
64

渡米者必携

米國事情

339-67

渡米者必携

米國事情

「北米の日本人」著者
植村寅著

發行所 內外出版協會

明治
45.4.26

はしがき

本會出版の『新撰渡米案内』は、主として渡米志望者に其の豫備的知識を與へる爲めに著はされたものてある。故に渡米後の事に關しても可也に記述してはあるが、然し一般渡米者が必ず知ッて居らねばならぬ事、心得て置かねば不便不利益な事、豫め詳しく其の事情に通じて居れば、他人が先づ第一着手に苦い失敗を經驗するやうな場合に、此方は易々と成功の端緒を握り得るやうな件々、其の他米國人全般の人情、風俗、習慣、嗜好、感情のいろ〳〵等に就いては、十分に述べて無い。本書『渡米者必携米國事情』は、則ち此の缺を補ふ爲めに書かれたものて、渡米者上陸後の必携書と見做して貰ひたいと云ふのが出版者の目的である。本書の著者が、前著『北米の日本人』の例言て言ッた『亞米利加みやげ』といふのは、本書のことであると承知して戴きたい。

目次

一 ホテル……一頁
二 レストラント……四
三 家屋……七
四 街路……一〇
五 汽車……一三
六 汽車の旅（桑港より鹽湖市へ）……一六
七 電車……二五
八 公園……二七
九 郵便と電信……二九
一〇 廣告……三四
一一 商店……三六

一二 酒屋……三九
一三 煙草屋……四一
一四 八百屋……四三
一五 芝居……四四
一六 教會……四七
一七 跛の英語……四九
一八 服裝……五四
一九 ハイカラ……五八
二〇 髭……六〇
二一 訪問と御辭儀……六一
二二 靴と靴磨……六四
二三 風呂と便所……六六

二四 洗濯……六九
二五 床屋……七一
二六 巡査……七二
二七 違警罪……七五
二八 米人の喧嘩……七七
二九 選擧……七九
三〇 子供……八〇
三一 アベコベ……八三
三二 女尊男卑……八五
三三 婦人……九〇
三四 男女の交際と結婚……九四
三五 婦人の職業……一〇〇

三六 醜業婦……一〇二
三七 世界人種の陳列場……一〇六
三八 ゆ爨權助……一〇九
三九 奉公口の掛合……一一一
四〇 スクール・ボーイ……一一二
四一 同胞の家内勞働……一一六
四二 キャンプ……一二三
四三 百姓と鐵道工夫……一二五
四四 月給取……一二八
四五 勞働組合……一三一
四六 世界第一……一三四
四七 年中行事……一三七

渡米者必携

米國事情

『北米の日本人』著者 植村寅著

一 ホテル

○日本の旅館では、客が玄關に著けば先づ番頭が出迎へ、部屋へ通れば主人が挨拶に來て平突張る、女中が茶と菓子を運んで來ると云ふ風であるが、米國の旅館では客が宿に著いたからとて、番頭が出て迎へるどころか、客が自身で帳場に行って番頭に掛合ふ、部屋が定ると備付けの大きな臺帳へ署名する、そこで始めて合鍵を貰ってボーイに案内されるのだ。さて部屋へ入った

處て、火鉢を持ッて來る者もなければ、茶一杯出すてもなく、衣服を疊みに來て吳れる者もない。此の點は日本の旅籠屋に比較すると至ッて殺風景てあるが、設備の完全なる事は頭から較べ物にならぬ。部屋には室を溫める鐵管も通ッて居れば、瓦斯も電氣もある、箪笥もあれば姿見もあり、ベルは勿論卓上電話も設けられてある。風呂と便所は必ず次の室に附いて居て、其處には無論洗面臺もあるから、捩子さへ捻れば四六時中勝手に風呂を使ひ顏を洗ふことが出來る。寢具の被蒲團と枕との蔽布は毎日か少くも三日に一度は必ず取替へる。日本ても敷布を用ふるものゝ、多くは敷蒲團だけてあるから、被蒲團は前夜何處の肺病患者の着たのやら譯の分らぬのを着せられるやうな事があるが、彼地ではそんな心配はない。

○食事は部屋ても出來ないことはないが、食堂へ出るべきものと成ッて居るから、日本流儀に部屋て以て種々の料理を取寄せて、婢のお酌て一杯と極め込むやうな自墮落なことは出來ぬ。ホテルには歐羅巴式と亞米利加式とある。前者は食料が旅籠料の中に含まれて居らぬから、食事は其の都度好きな物を誂へて食はねばならぬ。

○食堂には白の卓掛を掛け中央に生花を飾ッた多くの食卓があッて、タキシードやドレスコートを着けた給仕人が居て、客が入ッて來ると給仕長が目配せするから、此方へ御來てなさいと導き、椅子を直して腰を掛けさせる。卓上には獻立表が上ッてるから、給仕人が御注文はと伺ひ奉ると、各自御好みの御誂が下ると云ふ順序だ。

○ホテルの中には散髮屋もあれば酒屋もあり、玉突場もあれば靴磨も居る。洗濯屋も居れば仕立屋も居る。その他新聞、雜誌、繪葉書、烟草のやうなものから一寸した雜貨や化粧品も賣ッて居れば、芝居や寄席の切符もホテルの中て買ふことが出來、電報を打つにもホテルの中に會社の出張所がある

から、其處へ行ッて頼みさへすればどんな遠くへも音信が出來る。

○そして心附けはと言ふに、定めの宿泊料の外は茶代などといふ譯の分らぬものは一文もいらぬ。唯給仕人や男衆に用事を頼んだ時は、必ず其の度毎にチップだけは遣らねばならぬ。後に纏めて一緒に遣らうなどと思ッてゐると御粗末な待遇をされる。若しこの祝儀をやらなかッたものなら飛んでもないヘマを食はされて、出發時間に後れたり、人の前で恥を掻かされたりするから、此れだけは必ず怠ッてはならない。此の邊はよく露骨に現金主義を發揮して居る。

二　レストラント

○Restaurant を料理屋と譯するのは大に其の實を誤ッてるやうに思はれる。我が國の料理屋なるものは、道樂に、酒飲みに、遊びに、御馳走喰ひに行く

所と極ッてゐるが、レストラントはそれと大に趣を異にして居る。言はゞ我が國の飯屋のやうなものであるが、まさかに一膳飯屋の如く下等なものでなく、上等な所になれば無論精養軒や紅葉館以上である。

○米國は生活程度の高い國であるから家賃なども頗る高いので、一家を持つと云ふことが日本の様に容易でない。隨ッて下宿生活者が夥しい。獨身者は言ふまでもないが、夫婦者や、中には一家族四五人位で下宿屋住居をして居る者もある。そして下宿屋と云へば必ず賄附きであるが、米國には下宿屋に似て非なる部屋貸と云ふのがある。これは單に部屋だけを貸し、食事は各自外でするので、米國の所謂下宿屋なるものの八分通りはこれである。だからレストラント即ち飯屋は、生活上必要缺く可からざるものになッて居るので、どんな片田舎へ行ッても必ず無い處はない。

○レストラントには一食何程との定めもあれど、多くは一品幾何と定めてあ

る。先づ小瀟洒りとした質素なところならば、通例一食二十五仙から五十仙（日本金壹圓）迄てあるが、中には一食拾仙てスープもあればコーヒーもケーキも添ふると云ふ法外の大勉强のもある。時間は大抵晝は十一時より二時頃迄、夕は四時から八時頃迄となッて居るが、ダダラなのも處々にある。

○内部の體裁としては大廣間に澤山の食卓が並んてある。中には衝立様のもので仕切ッたのもあれば、一室〳〵小さく仕切ッた所もある。男子席と婦人席とは別にしてあるが、婦人同伴ならば婦人席の方へ行ッて差支へない。卓上には麵麭、バター、ソース、酢、鹽、胡椒、漬物（胡瓜の酢漬などの類）などが置いてある。獻立表があるから其れに依ッて注文する。勘定の時には給仕人に拾仙か拾五仙のチップをやるが御定りてある。酒も少しは出すが、眞赤になる程飲む者は無いやうてある。

三　家屋

○米國人の屋敷は日本の住宅の様に正面に門構へあり、遶らすに生垣を以てし、傍らに土藏あり、庭園あり、其の又庭園には築山あり、澄池あり、細草弱樹あり、名葩嘉木あり、修竹珍石ありと云ッたやうに雅致あるものてはない。唯芝生の上に住家が獨りニョッキと立ッてるのみて、塀もなければ門もなく、至ッて無趣味殺風景なものてある。其の代り四時青々たる芝生や四季折々の花が軒端に咲き亂れてる様は、日本ては多く見られない。

○家屋建築の材料は重に煉瓦又は石て、屋根は石盤かトタン葺てあるが、住宅には木造が多い。大抵は四階五階が普通てあるが、紐育などては隨分調子外れの大きいのがある。米國人は何ても彼ても世界一を誇りたがる癖があるので、大きいと極端に大きく、高いとなれば途方もなく高い。

○紐育のメトロポリタン・ビルディングは、世界第一で四十七階あるが、今度出來るイクイタブル生命保險會社は高さ九百呎六十二階建なそうぢや。岩谷天狗でないけれども「驚く勿れ」と言はねばならぬ。これではまるで雲の上に生活して居る人が出來て來るわけだ。

○都會は何處も同じ事で、自己所有の家に住んで居る者は甚だ少なく、多くは借家住居である。紐育市なんぞは、自分の家に住んで居る者は百人中僅かに六人であるさうな。五六階以上の建物になると必ず昇降機が設けられてあり、始終運轉してゐて隨意の處で停めて呉れるから、コト〳〵階段を昇る樣な御苦勞はない。そして五階へでも七階へでも鐵管が通ッて居るから、捩子一つ捻れば湯でも水でも出るやうになッて居るのは頗る便利である。

○室は天井高く、一室毎に錠がある。其の内には假令尊族でも當人の承諾がなければ入ることは出來ぬ。他人の部屋へ入る時には必ず戸敲をして入るが

禮で、日本の如く不意に入ッたり、又は明けてから御差支は御座いませんかと尋ねるやうなホコトンの事をしてはならぬ。

○其れから日本では番地の外に名札を出して置かねば容易に分らぬが、米國では商店とか會社とか又は醫師、辯護士などの外は姓名を屋外に記して置かぬ。唯番戸の數字を玄關の入口の戸か其の上の欄間の玻璃に金文字で大書して置くのみである。

○又凡ての家には地下室がある。商衢の方では大抵其の一部を人道の下に堀り出して置くから、地下室に在る床屋などに行ッて客が髯を剃らして仰向けになッて居ると、人道に敷きつめられたる鐵格子の玻璃窓を通して、男女の通行するのが足の方から見えるなどといふ奇觀もある。

四　街・路

○街路は全體の結構實に壯大て、必ず人道と車道とに區別され、どんな場末ても田舍町ても整然たるものてある。人道は玻璃を以て、漆喰を以て、コンクリートを以て、人造石を以て平滑に造られ、車道は天然石を以て、アスファルトを以て、コンクリートを以て、煉瓦を以て頗る堅固に造られてある。だから片田舍の村落ならば知らぬこと、都會の地では雨天の日にも靴の汚れる氣遣ひはない。婦人があの長い裳を引摺り歩き、平氣て外を歩いた靴のまゝて立派な座敷に上り込むのも、道路が綺麗だからのことである。

○街路の掃除はなか〳〵行き屆いて居るので頗る清潔てある。專任の道路掃除人が居て、箒の箒て始終念入りに掃き清めて居る。夏になると車馬道は言ふまてもなく、田舍道てすら撒水車を馬に曳かせて撒水する。市街の電車通

りなどは丁度客車形の箱に小さき孔の一面に明いてる鐵管の附いてる撒水器に水を滿たして走るから、流石に廣い大道も一往復て見事に撒水し了るのは如何にも心地よい。又寒中街路が凍ッて辷る虞れがあるときは、人足をして砂を振り撒かせる。雪が澤山降れば早速之を掻き掃ッて海や河へ捨てさせる。だから長く道路が汚れてる樣なことは決してない。東洋一の大都會否世界第四の大都と力んてる東京てすら、雨が降れば泥濘脛を沒すと云ふ有樣、まるて泥田の如くて、晴天には又灰の中のやうだ。道理て日本では都會の地を形容して「紅塵萬丈」と言ふが、これは成程適切な形容詞だ、然し世界一等國の街路としてはどう見ても受取れぬ。冀はくは國内重なる市街だけても、市區改正とやらを完全にやらかし、併せて廣告や乞食の取締り、電線の地下埋設や共同便所の設備等をやッて、不體裁な點を速く除いて貰ひたいものだ。

○米國の街路は凡て眞直に通ッて恰も碁盤の目の如く區劃井然として、丁度

京都の一層進歩したる市區の配置である。烏丸通りは何處まで行ッても烏丸通りで、今川小路の次が神保町、其の神保町が錦町となり、又小川町となり須田町に化けるが如き煩雜なるものではない。それに右側が偶數で奇數の番地は左側に限り、辻から辻までを百の番地に分けた其の用意の周到なる、我が東京の如く「本郷區駒込曙町十六番地にの部三十三號」なんて云ふやうな込み入ッたものは夢にも見られない。

○それから人は必ず人道を通ちねばならぬ。若し車道を通ッて車や馬に轢かれて負傷かうが死なうが、其の損害賠償を請求することは出來ないのだ。街上の人は往く者來る者皆お定りの一方へ避けるやうに習熟して居るから、雜沓した時でも割合に混雜せぬ。日本では左へ〳〵と言ふが米國では右へ〳〵だ。英國では左へ〳〵と言ふかと思ふと佛蘭西では右へ〳〵。

五　汽　車

○合衆國の鐵道哩程が二十餘萬哩、世界全體の鐵道哩數の五分の二を占めて居るだけに、鐵道事業は善く發達して居る。鐵道は無論廣軌で、速力は普通が一時間四十哩、急行となれば五十哩から走る。

○歐洲の汽車は、獨逸が四等に、他の諸國のは大抵三等に分れ居ること我が國と同樣なさうぢやが、米國は流石大平民國だけに、長距離旅行で、寢臺車を買はない以上は更に等級の區別はない。車室內は厚天鵞絨で蔽はれた立派な椅子が二つ宛左右兩側に前後幾つとなく備へられ、車內の裝飾も至極綺麗で日本の上等室よりも遙かに宜しい。寢臺車には二種あッて、プルマン、ツーリストと云ふ寢臺車を買ふ人が二等、プルマン、パレースと云ふ上等寢臺車を買ふ人が先づ一等と言へば言へるのである。此等の寢臺車には、談話室

も、喫烟室も、圖書室も、化粧室も、散髪室もあり、食堂車は無論附屬して居る。新聞、雜誌、煙草、果物、繪葉書などは車中で賣ッてるので、日本の如く停車中に喧ましく流して賣歩くやうなことはない。若し食堂車の無い列車なら食事頃に着く停車場に必ず料理店があッて一食五十仙とか七十五仙とか極めてあるから、十五分位の停車時間中に悠然と認めることも出來る。

○切符は無論停車場で賣るが、之を買ふの暇がなかッた時などは列事の進行中に車中で買ふことも出來る。但し長距離殊に幾會社かの線路を經て行く切符は、必ず本店又は支店で買ふのである。長距離切符は幾枚もの切符が續いて居る樣に出來てあッて、處々で一枚宛チギリ取るやうになッて居る。

○客車内は夜分は何れも電燈で、それが數多いからどんな細かな文字の本でも讀める。冬分になると蒸氣を通はせて車内を溫めるから、窓外降雪紛々たる酷寒の時でも、車内は六七十度の溫度を保ち恰も春の樣な心地がする。普

通の車室内では喫烟を禁じてあるが、其の代り喫烟車なるものが列車の前後孰れかに連結されて居る。喫烟車の椅子は黑皮で窓玻璃は黃色に燻ッて居る。床には唾液の痕や紙屑など散亂して不潔を極めてる處に、物騷な面をした髯男が大きな雁首のパイプや太い葉卷煙草を銜へてる所は餘り良い心地もせぬ。

○寢臺は上下二段同番號で、寢臺車の切符に其の番號が記されてあるから照し合せて其の席を取る。一人旅で婦人と同番號であッたら婦人に下の寢臺を讓るのが例である。寢臺は上から幕を卸して中の見えぬやうにしてあるから自分の番號を記憶して居らねば、便所へなど行ッて歸りに御隣りの妻君の床に潛り込むなどと云ふ、失態を演ぜぬとも限らぬから、善く注意すべきである。

六　汽車の旅（桑港より鹽湖市へ）

○南船北馬昨は東に今は西と廣漠たる大陸の荒野に漂浪する身の、今又東に向ッて鹿島立ちて候。桑港の對岸オークランドより汽車に搭じ、須臾にしてベニシアの渡頭に至れば、乘客の氣附かぬ中に汽車はいつしか二つに折れ渡船の甲板に乘り居り候。河か江か其の廣袤海の如く、爲めに橋を架する能はざるが故に、一大汽船を造りて汽車來れば其の船上に汽車を乘せて渡す樣、恰も西伯利亞のバイカル湖上の如しとか。船彼岸に達すれば、汽車は再び乘客を載せたる儘船よりする〳〵と陸なる軌道に滑り入り、小休みもなく走り行く。其の水陸聯絡の巧なる樣誠に感嘆の至りに御座候。其れより菓樹園、牧場、菜園、平原、及び人煙稀薄なる幾多の村落を經て、加州のキャピタルなるサクラメント市に着し候。此の地は州廳の所在地とは申せ、其の殷賑到

底桑、羅の二市に比すべくもあらず、唯一箇の田舍町に過ぎず候。附近の農園には日本人の農業に從事する者數多有之、孰れも此の地を中心として活動致し居る由に御座候。汽車の進むに隨ッて勾配益々急に、列車の進行は刻一刻と徐々となり、身は車輛の動搖の爲め催眠し來り、いつとはなしに白河夜船の客と相成り候。

○翌朝覺むればはや山際紫だちて旭彦の影少し出る頃にて候。見し夢の名殘もまだ現なるに車窓を排して外面を眺むれば、身は既に深山幽谷の中に有之候。是れぞ有名なるシイラネバダ山にして、頭上を壓する絶壁の下、溪水潺湲として流るゝの邊を、汽車は長蛇の如く蜿蜒として徐行致し居り候。暫くする內蓊鬱たる森林あり、平地あり、調材所あり、石切場ありて、山懷の小屋よりは煙の立つのも見受けられ候。兎や角致すうち身は是れ七千呎の山嶺に運ばれ居り、氣候の寒さも成程と合點致し候。先頃日本より參り候友は、

ホノルルにて夏に會し、桑港にて春に會し、今亦此處にて冬に會するとは、宛然四時を逆行するが如く、造化の神の物好きにも呆れ候とて哄笑致し候。

山上には松あり雜木あり、種々なる灌木も雜り居り、處々に小さき沼湖の朝日に輝ける樣得も言はれず、恰も繼梯山の噴火の跡のそれの如くにて候。

○日本に於ける四時の轉換は、夏暑くして草木生ひ茂り、冬寒うして枯草野に充つれども、大陸沿海の山野は之と反對にして、夏期炎熱燒くが如きの候野赤くして枯草火に燃えんとし、冬期は雨多ければ、野草生長して原野爲めに青く、山色異樣にして何となく締りなきが如く感ぜられ候へ共、今又內地に入るに隨ッて四季の轉換加州の其れと反對にして、日本の如く秋紅葉を眺められ、爲めに少なからず懷郷の念に打たれ候。

○ネバダ州に入れば四面何となく荒涼索寞として、山には木もなく草もなく唯惡臭ある短き荆蕀（セージブラッシュ）の點々たるのみ。砂漠、砂原、これが

即ち此處に適當なる代名詞にて候はんか。山も河も森も田畑も人家も無之、一望見渡す限り幾百哩と際涯なき大荒野、一面代赭を流せる如き薄墨を刷きしが如き單調無味なる其の殺風景さは、恰も繪にある滿洲の如くにて、且つ汽車の走るに隨ッて風塵起り濛々として咫尺を辨ぜざる程に有之候。これを極彩色の如き日本の風景や四時花笑ひ鳥謳ふの太平洋岸の光景に比較せば、何やら一種調子外れの淋しき感を起し候。されど宇宙のサブライムを感得するは却ッて大陸の斯かる處かと被存候。

○尙も進みてユタ州に入り、有名なる大鹽湖邊に近づけば、既に六七十哩も此方より坦々たる平地は宛から黃褐色の漆喰を以て堅めたるが如く、幾千年かの昔には此の邊も大鹽湖底にはあらざりしか、落機山の中腹にすら貝の化石ありとか、さらば前世紀には此の邊り一體に海底なりしかなどと、獨りイマジネーションを働かす內、汽車は何時しか湖畔に着し候。此處より愈

々世界第一の長鐵橋にさしかゝり候。光景は唯今切の怒濤を見るを得ざるのみにて頗る我が濱名湖に髣髴致し居り候。此の鐵道、以前は湖畔を迂回せしも、目下は湖上四十哩の間鐵橋を架して列車を通じ、而かも中間に停車場の設けすら有之、流石は大陸の仕事の規模の大袈裟なる、唯驚くの外無之候。普通海水の鹽分は百分中三乃至四なれども、當湖水は二十五の鹽分を含み居ることとて、人之に浴する時は身殆んど全く水面に浮び出づるの奇觀を呈し且つ餘りに鹽辛きこととて一尾の魚族だに無之由に御座候。湖邊の風光の明媚なる宛然一大パノラマの如く、殊に其の日沒の光景は北米名勝の一に數へられ居り候。沃野遠く相連るところ處々に森林の之を點綴するあり、遙かに浩波を隔てゝ雲煙縹渺の間に一抹の山影を彷彿するなど、殺風景なるネバダの大沙漠を横ぎり來れる旅客は、孰れも此の絶景に接して實に蘇生の思ひを致し候。

○夕方奥殿に着仕候。此の地は交通上樞要の地に位するを以て近來其の膨脹著しく、隨ッて日本人勞働者の集散亦盛んに、ユニオンステーションの如き頗る廣大にして、現に邦人の勞働する者壹百人を上り居り候。此の邊一體に我が東北地方の人多く、ズウ〳〵、べ、サの連中なか〳〵に勢力を占め居り一入故山の面影を偲ばれ候。目下大根切り仕事の結了せし時期とて、市内各所に邦人を散見致し候。概して此の邊の日本人は、加州邊のそれの如く外觀上白人の指彈を受くる程敢く極端なる生活を營み居らず、且つ邦人に對する白人の人氣も一般良好の如くに見受けられ候。

○當地方の邦人向き勞働としては砂糖大根及び鐵道のみにて、沿岸諸州の如く手の掌の柔かなる勞働者向きの仕事は無之候。大根仕事は盛期には僅々一ケ月位にて貳百圓餘を儲け得ることとさして至難の業にも無之由なれども、仕事の永續せざるが故に閑散の時期には鐵道に入りて働き居り候。蓄財の方面

より論ずれば却ッて鐵道に繼續勞働致す方成績良好にして且つ堅實なる策に候へ共、日本人の習癖として兎角一事に携はり兼ぬるが故に結果甚だ面白からず、延いて雇主の不快を買ひ、漸次他國勞働者の爲めに同胞の勞働範圍を蠶食せられつゝあるの現況は、甚だ遺憾の次第に御座候。

○有名なるオグデン、ケヤニオンは市の北方に在り、電車を通じて觀客に便にし、天然の美に施すに人工を以てし風趣掬すべきもの有之候。一條の清流兩山の間を貫き、今にも落ちかゝらんずるが如き奇巖怪石面を壓して峙ち、氣清くして人煙稀に、世の擾々を知らざる仙境の如くにて候。溪流潺湲として自然の琴を彈ずるが如き邊を上ること十餘町、忽ち一道の飛瀑三百尺の高きより落下し來り、氷煙雲の如く搖曳し、飄々乎として風に御して空明に浮ぶ樣を見、思はず拍手して其の壯觀を賞し候。これなん水力電氣の廢氷を利用して此處に此の好箇の詩景を拓出せるものなりと。米人の風流もなか〳〵に侮るべからず候。

○此の地より南四十哩、汽車一時間程にしてソートレーキ市に達す。鹽湖市はユタ州の首都にして一夫多妻主義を標榜せるモルモン宗本山の在る處、其の有名なる伽藍は長方形の建物にして全部花崗石より成り、實に三十五年の星霜を閲して竣工せるもの、優に一萬五千の會衆を容るゝに足る大殿堂は一本だに支柱を用ゐず、建築家の苦心如何ばかりと察せられ、伽藍の廣大壯麗なると共に確かに當代の大建築と誇負するに足るものと被存候。聞くモルモン教徒が基督教徒の迫害を遁れて、當時無人の境たりしロッキー山西の曠野に新鄕土を開拓せんとして此の地をトせしが、これぞユタ州の起原なる由に候。其の始め住民はモルモン教徒のみなりしが、追々開化するに隨ひ諸方の人間入り込み來りて勢力を振ふに至りたる由に御座候。

○桑港鹽湖市間は行程凡そ八百貳十哩、中間境するに七千呎以上のシイラネ

バダ山脈を以てすれどもトンネルの如き僅に二三の短きものあるのみ、停車場の如き頗る簡便にして唯一條の軌道を渡すのみの處往々有之、小停車場に至りては乗客の待合室だに無之處敢て珍とするに足らず候。されど側線の ある處なれば、如何なる處にても乗客の合圖によりて停車するが如き便宜は、到底我が國にては見得べからざる事に御座候。されば時間だに至れば、急ぎ乗らんとする客をも突き倒して發車せしむるが如き重箱式なる日本の其れの如きとは較べ物に相成らず、萬事に個人の權利を尊重するの美風は各方面に發揮せられ、其の自由を尊ぶ樣は實に嬉しく被存候。

○軌道は何れも廣軌なれば積量多く、間々狹軌の支線などあれどもそれとて唯一時間に合せの場合のみに限られ候。車室内の構造美にして設備至らざるなく、雪中に二日三日も立往生して飢寒に苦しむが如き日本の東北地方、の汽車とは其の差霄壤の如くにて候。されど米國の鐵道は主に速成を旨とし

漸次完成を期するが故に、他に比して事故の多きを免れず候。何故に速成を旨とするやと言ふに、其の敷設の目的に於て我が國の鐵道などと自ら性質を異にするが故にて候。日本の鐵道は交通の便を助くるの目的にて起り、米國の鐵道は開拓を主眼として起り候。人跡稀なる深山幽谷に第一に鐵道を敷き、木を伐り道路を開き、遂に人を移住せしめて漸次附近の富を開拓せしむるが目的にて候。されば廣漠たる原野に在りては、驛と驛との間五六十哩も隔て居るは決して稀有のことにては無之候。（己酉初冬稿「福島民友新聞」に掲載）

七　電車

○市街交通機關の最も發達してるのは米國で、世界第一なさうだ。英京倫敦のやうな世界第一の大都ですら、電車の便利は唯市外の方にあるのみだとか。乗車賃は全國均一制で、市内はどんな遠方迄乗ッても五仙だ。客より乗車賃

を受取る毎に車掌は天井の皮紐を引く、さうすると正面の置時計然たる器械に數字が一つ宛、一二三四といふ圖に現はれる。だから其の數字で幾十人乘ったかが直ぐ分る。市街鐵道には幾會社もあるが皆聯絡がついて居るから、乘換切符（トランスファー）さへ貰へば、甲乙丙丁孰れの線へも自由に乘り移ることが出來る。

○車室は日本の電車よりも大きく、中は所謂ボギー式とやらだ。併（しか）し空席がなけりや御同樣皮の紐につかまって立って居ねばならぬ。市内は必ず辻々で停車することになって居るが、劇場とか敎會又は市廳の前とかになると中途でも停めて呉れる。夜分などは各辻で停車せぬ時もあるが、一寸片手を擧げて合圖をすれば直ぐ停めて呉れる。車内で居眠りする程泰然自若たる人も無いから『神田橋で御座います、日比谷三田上野淺草方面は御乘換！、もうお降りの方は御座いませんか、はい出ます／＼……次は錦町三丁目、お降りの方は御座いませんか、お聲がないと停りません、……はい曲りますから御注意を願ひますよ……』込み合ひますから懷中物御用心！』と、殆んど絶え間なく耳に響いて來る斯うした車掌の呼ひ聲は聞かれぬ。從って其の速力の迅速なることまた比較にならぬ。

○英佛諸國の電車は二階造りなさうぢやが、米國のは皆平（ひら）造りで、車内は無論禁烟（ノースモーキング）である。

八　公　園

○凡て都會の地價は高い。東京などは昔から土一升金一升などと言って馬鹿に高い處となって居るが、米國の都市では一呎四方で何百弗と云ふ恐ろしく地價の高い處もある位だから、庭などを造って置く者はない。又假令庭の小さいのがあったにしても、五階も七階も上の窓から首を出して眺めたところで、徒らに目を眩（くら）ますのみで何の風情（ふうせい）もあるまい。だから別莊か又は贅澤な

金滿家の住宅（レシデンス）でもなければ庭園などを造って置かぬ。隨って公園（パーク）と云ふものの必要が痛切に感ぜらるゝのである。

○米國の公園は規模頗る雄大て、紐育の中央公園（セントラルパーク）の如きは殊に素的なもので幾んど全市の八分の一の面積を占めて居る。修繕費だけでも年々何十萬弗と掛けるので諸種の設備も實に萬端行き屆いて居る。亭々たる老幹あり、蓊鬱たる巨木あり、彼處（かしこ）に四季馨（かを）り高き花の絶えざる花園（ガーデン）あれば、此處（こゝ）には鷗（かもめ）の浮び廻る池もある。博物館あり、動物園あり、音樂堂あり、何れも市民の無料遊覽を許して居る。夏の夕清風凉しき芝生の上に憩（いこ）ふ老人も居れば、木蔭の椅子にもたれて讀書に耽ッてる婦人もある。肥馬輕車を驅ッて揚々と遣ッて來る者あれば、青年男女相擁して喃々と私語するもある。實に日曜の公園の如く長閑（のどか）なる樣は何處にも見られぬ。平日は生存競爭に火花を散らして居ッても、日曜には萬事を忘れたかの如く休息遊樂に過し、復び活動の英氣と

活力とを蓄へるのてある。日曜日には黑煙の空を遮ることなく、市内は平日の喧囂の聲全く跡を絶ち、太陽の光も平日と異なりて照りわたり、閑靜なる街衢は恰も別天地のやうな感がする。

○公園には公園内を巡邏して居る巡査が居る。多くは騎馬で公園の秩序と風紀とを保持して居る。又掃除人が居ッて絶えず花卉の手入れやら水撒きやら掃除やらをやッて居る。

○米國には公園の外、市内處々にスクェアと稱する小公園がある。チョイとした地面に種々なる樹木を植ゑ附け、多くの腰掛（ベンチ）を置き、偉人の記念像（モニュメント）などを澤山建てて置く。晝食後の休み時などに散歩する者が頗る多い樣だ。

九　郵便と電信

○郵税は米國内地及びメキシコ加奈陀だけへは葉書が一仙で封書が二仙、外

國行の葉書は二仙封書は五仙である。葉書や切手は賣藥舗のやうな所で賣ッてる。郵便函は大抵辻々に小さな鐵の函を出して置き、又處々に新聞や雜誌やを入れる大きい函もあるが、面倒だからとて小さい方の函の上に載せて置いても取集人が來て持ッて行ッて呉れる。日本などでそんな事をして置いたら子供等が、假令見ないまでも持ち去るか、又は惡戯して捨てゝ了ッたりするだらうが、米國の子供はいくら惡戯好きだからッてそんな惡太郎は居らぬ。

○米國の郵便局には配達人の居るのと居らぬのとの二種ある。較〻大きな都會ならば無論居るが、邊鄙な地となれば、郵便物は凡て郵便局に持ッて行ッて投函し、又到來郵便物は局に置いてあるのを受取ッて來るのである。この種の郵便局には二三寸角の抽斗様の空棚が備へ附けられ、其の前面の玻璃戸に番號が書いてある。市民は之を一つ借りると、來た郵便物はこれへ入れて置いて呉れるから、何時でも通りがけに寄ッて覗いて見て、入ッて居れば玻

璃戸を明けて取り出して來るのである。都會の郵便局にも無論この種の設備があッて會社商店のやうな所では必ず借りて置くのだ。そして郵便貨車の着く度毎に行ッて見て、來て居れば持ッて歸るやうにして居る。

○郵便配達人は、ズックや皮製の大きな鞄に郵便物を入れ、之を右の肩から左の腋下に掛け、尚ほ其の餘ッた分を皮紐でギユウと括ッて幾個もブラ下げて、ノソリ〳〵と歩いてる。日本のやうに急ぎもせず、又米國風に早くもない。受取人の家の前に來ると、笛を鳴らして家人に注意して、郵便物を戸口に挿むか階段の上に置いて往くのだ。若し家の中の人が集配人を見かけて、どうかこれを序に待ッて行ッて呉れぬかと賴むと、宜しい御投げなさいと言ひ、二階から投げるのを拾うて行ッたりする様は、どうして〳〵日本などでは全く想像がつかぬ。併し日本の郵便配達夫は夜まで幾度となく配達するから、此の點にかけては米國は遙かに劣等である。米國では日曜は休み、祭日は午

前唯一回、平日でも桑港のやうな大都會ですら僅かに午前と午後各一回だけである。だから急ぎの用事は到底郵便では間に合はぬ。

○其の代り電信電話が大に發達普及して居て、大抵の市街には勿論、田舍までもよく其の便利が行き亘ッて居る。米國の電話帳に電話の効能を述べて、郵便は便利ではあるが時間が掛る、電信は早いが打電するに態々電信局迄行かねばならぬが上に思ふ存分に言ふことが出來ぬが、電話は坐ながらにして立所に而かも十分に用を辨ずる最便最利の機關であると言うて居るが、如何にも其の通りである。米國人は、郵便の早いのは文明國ではない、文明國人は郵便などで用を達さず、市内は電話遠くは電報でサッ〳〵と辨ずるから、郵便などはまア御無沙汰見舞か急がぬ用事でもなければ用ふる必要ないと言ッて濟まして居るが、ナール程聞けば一應御尤もな次第である。

○されば電信の早いことは又意想外である。何れも民間の事業であるから、

會社々々で競爭して互に華客の便利を計ッて居る。返電を急ぐ電報の配達を受けた場合などには、配達夫から頼信紙を貰ッて直ぐに返電を認めて電報料と共に其の場で配達夫に託せばそれで可いので、日本の樣に一々電信局へ行ッて、恐る〳〵頭を下げて、丁寧に口をきいて御願ひ申さねばならぬやうな面倒はないのである。序だから爰にヘラズ口を叩いて置くが、日本の役所では官廳と名の附く所何處へ行ッても、例の腰辨先生雪駄の日和干し宜しくと云ッたやうな風に莫迦に反り返ッて、傲然と横柄に構へて田舍漢などと見ると矢鱈滅法に叱り飛ばして居るが、傍目からはチャンチャラ可笑しくもありまた片腹痛くもある。これを官吏風とても云ふのか、どうも妙な風も流行るものだ。御當人達は其の邊一向御氣附き召されぬのかも知れぬが、兎に角無駄威張りに威張ることだけは一切止して貰ひたいものだ。

一〇 廣告

○我が國でも近頃は廣告がなか〳〵發達して來たが、米國人の廣告と來ては實に素晴らしく眼覺しいもので、其の巧妙斬新な意匠はトテモ他國人の眞似の出來ぬものがある。米國人ほど廣告を利用し廣告を重んじ廣告に注意し廣告に苦心するものは世界にないさうだが、米國の商店は其の飾り附けまでが廣告的だ。日曜日の新聞紙の紙數は平日に數倍して居るが、其の廣告だけでも二三十頁もあるのがある。

○廣告の方法は種々あるが、大別すれば新聞雜誌に廣告すること、町筋の空屋空地へ廣告すること、電車内に廣告すること、鐵道線路に沿うて廣告すること、往來で吹聽すること等で、大抵我が國のと同樣である。普請などがあッて板圍でもしやうものなら直ぐ樣そこへもッて行ッて一面に廣告を張る。

空地に隣ッてる家の横側や巨大な煉瓦の建物などへ一面に目の覺めるやうな廣告をする。又汽車の道筋や停車場の近傍等には、それは〳〵驚く程澤山な廣告があッて、中には隨分思ひ切ッた圖場拔けた遣り方もある。市街なんどを歩いて居る、フト人が澤山集まッてゐるから何かと思ッて覗いて見ると、馬が日射病で斃れたのだ、其のうちに一人の男が衆人を押分けてやッて來た、何をするかと見て居たら馬の腹へもッて行ッてベタリと何か貼り附けた。オヤ〳〵と見ればナーニ賣藥の廣告だ。こんな工合で隨分奇拔な事もする。

○日本でも同樣であるが、一番大きく廣告をするのは賣藥化粧品煙草等で、大きな商店などは廣告料だけでも年々莫大な金を支出する。日本の商人もなか〳〵廣告術が巧くなッて居るが、又大に拔けてる點もあるやうだ。日本の樣な町幅の狹いところでは、屋根の上に如何に立派な廣告を出しても、殊更に仰向いて見るでなければ左程に人の注意を引かない。それぢや折角の廣告

も効力が薄いから、それよりか誰でも目のつく陳列臺の腰板の廣々たる處を無駄にあけて置かずに、其處に自家の屋號や廣告を掲示したら良からうと思ふ。兩方利用したら尙更結構ではあるまいか。それから陳列臺の品物には必ず定價を附して置くべきものだ、これは客を引き附けるに最も有力な方法である。

二　商　店

○店頭の裝飾商品の陳列法等實に巧妙で、常に意匠を凝らすを怠らぬ。少し大きな商店になると、專門の技師を抱へて置く所もある。殊にショーウヰンドウの裝飾は屢〻眼先を變へて往來の人の目を惹くことを力め、クリスマス前などはそれは素的なもので、光彩絢爛たる其の飾り附けには少なからぬ金を費すさうだ。猿とか蛇とか商品と何の由緣も無いやうなものまで利用して

行人の好奇心を惹いて其の注意を店に呼び集める工夫をして居る。

○土曜日の晩を除く外夜分は商賣はせぬ。尤もクリスマス近くなれば總ての商ひが大繁忙となるから夜分まで商賣する所もあるが、これは特別の場合で平生は決してせぬ。又日曜日は、酒屋煙草屋料理店賣藥舗等の外は皆休業である。但し猶太人の商店だけは此の限りに非ずだ。

○日本の小賣店は概して懸直を言ふ癖があるが、米國では猶太人の商店を除く外すべて正札附懸直無しだから、負けろ負けぬの執拗論判の必要もなければ、外國人だからッて吹ッ掛けらるゝ氣遣ひもない。それに米國の店舗では買手も賣手も立ちながらの取引で、日本の樣に一々お客に腰掛を與へ、烟草盆を出し、時候の挨拶をして、さて御用はと承はると云ふやうな氣の長いことはせぬから頗る迅速である。

○品物は能く吟味して買ふのが米國の流儀であるから、氣に入るまで取替へ

引替へ何程でも出させて見て差支へはない。そして結局氣に入らなければサッサと空手で歸って來る。餘り冷かして氣の毒ぢやなど云ふ日本流の斟酌は毛頭御無用である。

○買物は小さいものならクル〳〵と紙に包んで兩端を捻って渡し、少し大きいものなら紙包の上を糸で縛って呉れる。更に重いものなら早速宅へ屆けても呉れるから、一切風呂敷の必要はない。

○日本でも近來流行って來た彼のデパートメント・ストアと云ふは、大規模な勸工場然たる萬屋小賣店で、實に何一つ備はって居らぬ物はない。どんな小さな物でも大きな物でもあって、料理屋までが中にある。隨って其の繁昌は非常なもので、紐育のワナメーカーとか市俄古のモンガモリーなどは、一日に何十萬と云ふ客があって押しも返されもせぬ有樣、クリスマス前の最も多忙の時には三千人の多人數を使用するとのことである。日本の勸工場では

直段が幾分か割高なのが通例であるが、米國のデパートメント・ストアでは大資本で原料を買ひ込み、又は一切の商品を自ら製造するので、普通の商店よりも却って安値である。

○矢張りこれも小賣商店であるが、均一商店と云ふのがある。店内には皆均一の値段の品物ばかりを集めて置く。丁度神田の和田商店のやうなもの。主に五仙十仙十五仙等の店で、稀に二十五仙位のもある。頗る輕便な所から是れ亦なか〳〵繁昌するので、到る處の町に在る樣だ。主としてローズ物や棚晒物を多く集めて置くので格安である。

二二　酒屋

○米國に多いのは酒屋だらう、町々の角家は大抵酒屋か藥屋と云ふ有樣である。酒屋で賣る酒は一杯賣りで通り掛りにチョイと入って立飲みすると云ふ

工合で、日本のやうに徳利や鰻を提げて買ひに行くのは例外である。酒屋に依ッては、フリーランチと云うてサンドウヰッチとかサラダとかを皿に盛ッて棚に並べて置き、客の無代て取るに任す所もある。酒飲みは何處ても口賤しいものと見えて、勞働者などは此處へ來て一杯五仙の麥酒を注文して、このフリーランチで晝飯を食はずに濟ます者もあるさうだ。

○又酒屋によッては奥の院に野郎共を惱殺すべき幾多の妖艶なる美人を貯へ置いて、媚を凝し嬌態を盡し種々の藝當や陽氣な音樂を奏し、又は裸踊などをさせて、お馴染の客に興を添へさせるさうだが、それで眼尻の下ッた助平が一寸ても眼クバセしやうものなら、早速遣ッて來て妙な情意投合も成立するのぢやさうな。

○それから街上て泥醉れて居ると巡査に大目玉を頂戴した揚句に、違警罪に處せられて五弗からの罰金を徵收されるから、往來て日本の様に金時の火事

見舞然たる顔して、醉眼朦朧千鳥足て鼻唄なんどとそんな眞似は出來ないが、酒屋は晝夜營業するから、毎夜深更まて飲んて、コクリ〳〵朝まて過ごす宿なし者も居るゲナ。

一三　煙草屋

○煙草屋の多いこと敢て酒屋の多いのに劣らない。だが唯煙草を賣るだけてあるから店は皆小ぢんまりして、間口も奥行も一間半位なのが多い。日本の煙草屋は何處へ行ッても婦人が店番で、煙草屋と云へば殆んど婦人に限る營業の様になッて居るが、米國の煙草屋は何れも必ず大の男が店番をして居る。

○近頃また日本ても、未だ十七八の親の臑を齧ッて居る若藏連まで喫煙するやうになッて來たが、政府て商賣するやうになッたせいか査公なんかも餘り矢釜敷文句を言はぬ様てある。今更陳腐な喫煙の弊害などを並べ立てはせぬ

が兎に角感心の出來ぬ現象だ。米國では煙草には一般に隨分贅を盡すやうてあッて、大抵は葉卷煙草て、日本の如く紙卷煙草を吹かして居るものは滅多にない。同じ刻煙草を吸ふにも大きな雁首のパイプへしこたま詰め込んて吸うて居る。日本人の煙管の如く一吸か二吸で吸ひ盡くさるるやうな小さなものはない。

○考へて見れば喫煙は恰も紙幣を煙にするやうで馬鹿げた話だが、貴賤貧富の別なく東西一般の風となッて居る。然し國異なれば風習自ら變るもので、我が邦では酒を飲む婦人は極く少ないが、煙草を吸ふ婦人は決して少なくない、反對に米國では酒を嗜む婦人は少なくないが、煙草を吸ふ者は極めて稀れである。吾輩は自分が吸はぬからとて强ひて禁煙を勸める樣な野暮な男ではないが、婦人が男と同じく太い卷煙草を銜へて鼻の孔を煙突の代用にして、盛に濃き太き煙りを吐き出すなどは餘り御結構な樣ではない。

○それから日本人は煙草の火を貰ふ場合に他人がマッチに火を點けて出すと屹度其のマッチを自分の手に受取ッて自分で煙草へ火を點けるが、米國人は葉卷なり紙卷煙草なりを口に銜へた儘顏を前に出して來て火を點ける。風習だから何てもないやうなものゝ、馴れない邦人には何となく横柄の樣に感ぜらるゝ。

一四　八百屋

○呼賣りする八百屋は大きな荷車を馬に曳かせて、自分は荷車の上に坐して大聲を張り揚げ、威勢よくポテートー(馬鈴薯)キャロッツ(人參)ビーンズ(大角豆)などと妙な音調で觸れ流して歩く。商店では午前中軒別に御用を聞き廻るか、或は電話で注文を受けて、午後馬車で配達するのであるが、其の御用聞きばかりを當てにせずに奥樣御自身で御出馬の上、此れは何程彼れは

幾干と頻りに御吟味に相成ッて御注文遊ばすことも珍らしくない。店には青物專門のもないてもないが、通例はグロセリーと稱し、日本の乾物屋の樣な店て野菜類菓物類粉類雜穀鑵詰等より、麵麭、マッチ、蠟燭に至るまて商ッて居る。

○日々の食卓に上る主なる野菜は先づ馬鈴薯、これは上は大統領より下はお三權助に至るまて肉食には必ず缺く可からざるもの、蕪、人參、玉葱、豌豆、玉蜀黍、赤茄子、萵苣等もよく食卓に上る食品てある。果物としては苺、桃、苹果、甜瓜、水瓜、橙、櫻實、葡萄、梨等て、乾燥果物にはプルーン、アップリカット、レーズン等がある。

一五　芝居

○米國劇場の舞臺の構造は日本のと大同小異て、唯花道が無いのと囃し方が

舞臺の直ぐ前に陣取ッて居るだけの相違てある。幕は日本の樣に引き幕てなく、ドロップ・カーテンと云うて吊り下すので、一面に各商店の廣告を以て埋められて居る。座席は日本の棧敷に相當する處をボックスと云ひ、高土間をドレッス・サークル、平土間をファミリー・サークルと云ッてる。棧敷は二階三階執れも後の方は前の方より高く出來て居て見物には頗る都合がよい。ボックスには無論椅子が在ッて自由に動かせるが、他は皆造り附けの椅子て、下面には帽子を掛けることの出來るやうになッて居る。番附はすべて小冊子形て、扮裝する役者の名やら筋の大略をチャンと書いたのを印刷して置いて、入場の際一部宛觀客に與へる。

○米國ては劇場の中て喫烟は無論のこと飲食禁制て、唯幕間にキャンデーやピーナッツ又はチーガムの樣なものを賣りに來るに過ぎぬから、一同靜肅て滿場恰も水を打ッたるが如くてある。如何に下等な土方人足やお江戸の兄貴

の様な者でも、芝居では神妙に靜かに控へてゐるのは感心だ。尤も極く滑稽なところになるとドッと笑ふこともあるが、決して演藝中には囃しなどはせず、幕が切れて俳優の引き込むときに大に喝采するのだ。て觀客が喝采すると一旦引込んだ俳優が再び幕を揭げて出て一統へ御禮をするのである。俳優は男女混合て男役に扮するは男子女役に扮するは女子であるから、自然の情趣を表現するには申分がない。

○演劇の時間は通例三時間位て、午後二時から五時頃迄と、八時から十一時頃までと、一日二回同じ事を繰り返すのであるから、我が邦のやうに朝から行ッて晩に及び、翌日は草臥れて頭痛がして仕事を休まねばならぬと云ふ心配もない。時間の都合もよく且つ短いから、中で食事をする必要もなく、する者も無い。それに入場券は椅子の數だけしか賣り出さぬから、決して雜沓するやうなことはなく且つ自分の番號の椅子は假令自分が往かなくとも他人

に侵さるゝやうな事はないから、切符一枚さへ買ッて置けば、何時行ッても悠然と觀て來ることが出來るのである。

○座席にはそれ〳〵番號があり、木戸口て入場券を買へば中には燕尾服を着けた男が居て、一々丁寧に番號と等級に照し合せて其の座席へ案内して呉れる。皆椅子だから座蒲團も要らねば、ストーブの設備があッて加之に禁煙だから火鉢も要らず、靴に下足の必要もない。だから日本の芝居の様に、下足賃や、火鉢代や、座蒲團代や、辨當代や、ポチなどに澤山要することはない。

一六　教　會

○米國は流石基督教國だけに、如何なる山間僻陬の地と雖も教會の設けのない處は無い。日曜の朝十時頃から、各教會の鐘がゴン〳〵鳴り出すと、善男

善女が(?)ソロ〳〵集まッて來る。禮拜は通例十時半からで、讃美歌を唱ふ、説教を聽く、祈禱をすると云ッた風である。勿論處々の教會に依ッて多少趣が違うては居れ、日本の佛教徒が無意味にお寺へ寄り集まると同樣、信仰心などは何處へやら、唯義務的儀式的世間並に集まッて來る者が多いやうである。ヤレ彼處の教會は音樂が善いの、此處の教會は別嬪が澤山居るのと、まるで音樂會か姫探しにても行くやうに思ッてゐる者も居る。だから牧師の祈禱でも少し長いものなら、何れも畏まッた風に頭は下げて居るが、若い男女などは手で突き合ッたり足で蹴り合ッたりして巫山戯て居る者もある。それに若い婦人などは、芝居行きと同樣に今日を晴れと着飾ッて繰り出すので、會堂内は恰も美服の共進會の如き觀を呈する。

㋐然し米國の教會は、日本のお寺のやうに抹香臭く陰氣なものではない。ほの暗い本堂深く、錦襴の袈裟を懸けた坊さんが南無阿彌……陀……佛……ガ

ーンなどとやられると、難有過ぎて佛樣のお供でもしたくなるやうな感がするが、米國の教會は實に陽氣なもので、五彩の窓ガラスが朝日に照らされ、盛裝せる紳士淑女が嘲嘵たるオルガンの音に和して讃美歌を奏する時は、何となく氣が浮き立つやうだ。そして散會する時は、牧師が會堂の入口に出て來て、來會者と一々握手をして別るゝのである。唯神聖なる可き教會が、果して神聖なるや否やは保證の限りでない。

一七　跛の英語

○日本語では、單に君僕と言ふにも幾樣も言ひ方がある。僕と言ふにも、拙者、身共、吾輩、此方、余、我、私、野生、迂生、小子など、又君と言ふにも、貴殿、貴公、貴下、尊兄、足下、汝、其方、其許、御身、卿などと、それはなか〳〵多いが、英語では唯ユーとアイとの外に無い。それに別段日本

語の樣に、其れ〳〵丁寧な敬語を用ふるの必要もないから至極輕便である。それかあらぬか、世界の國語の中では英語が一番他國民の間に入り易いさうだ。然し日本人はどうも遠慮勝ちで、會話などでも、彼う言ッたら失敬だらう、此う言ッたら笑はれやうなどと、兎や角逡巡してるので發達が遲い。そこへ行くと支那人の無遠慮なのは驚くほどだが、隨ッて其の發達も速い。

○嘗て友人から斯ういふ話を聞いた。或る日電車に乘ッて居る處へ白婦人が、一人の子供を連れて遣ッて來たが、生憎腰掛に空きがなかッたので、其の婦人は入口の戸の近くに掛けて居ッた支那人の傍に行き、席を讓ッて呉れと言うた、處が其の婦人の態度がブラウドだッたのか乃至は聞き違へたのか、豚尾漢先生大に怒ッて矢庭に曰くだ、『ユーファイセン・ミーファイセン・オールセームファイセン・ゴッデム・ゲラ（ヘア・ミセス』とやッたので、白婦人は何の事やら薩張分らず、唯眼を白黑にして恐れ入ッたさうだが、これはYou five

cents（汝も五仙＝電車賃）Me five cents（余も五仙）all same five cents（同じ五仙ぢやないか）Go-dim-hell（ベラ棒め）get away from here Mistress（しさやがれ此の阿女）とやッたのなさうだ。

○それから、或る日本人が病院Hospitalなる英語がどうしても分らぬので、當意即妙Sick（病氣が）by-and-by（段々）all right（良くなる）house（家）と頗る振ッた說明をして、それでもたうとう分ッたさうだが、第一國立銀行をばNumber one（第一）Country（國）stand（立）silver（銀）go（行）と大々的の直譯をやらかした時には、どうしても通じなかッたさうだ。

○次は艶消しではあるが、一寸御愛嬌のある失敗談である。それは日本で少許英語を學んだ男が、サンフランシスコへ着いて市内を諸方見物して居たら一寸した横町の或る家の窓に、金文字で麗々しくMid wifeと書き、其の下にRooms to letと書いた小さな紙を貼ってあるのを見つけて、先生以爲らく、「部

屋に於てせしむる可く……中間の妻？」、パパーこれは必定曖昧屋だなと乙に合點し、米國では畫でも構はぬと豫て聞き及んだからと、威勢よくフロントベルを押して入った。處が出て來たのは艶麗花の如き美人でも殊姿秋蟬の媛御前でもなく、五十面の皺苦茶婆さんであったので、先生怪しき英語に手眞似を混ぜて、ピューターの居るか否やを尋ねたが一向に分らぬ。然し先方は流石は商賣柄早速に、これは自分の妻が急に産氣附いたので産婆たる自分を迎へに來たのだと悟り、電話で馬車を呼び寄せ、いざ共に行かうと言ひ出したので、先生是は形勢頗る不穩と見て取り周章て飛び出して了ったので、婆さん驚くまいことか怒るまいことか、一生懸命で追ひかけ大騒動が持ちあがったが、丁度其處へ通りかゝった日本人が話を附けて無事落着に及んだ。後で先生ミッドワイフとは『産婆』のこと、ルームスッーレットとは『空間』あるとのことだと聞かせられて曰アングリ。

○又こんな話もある。日本から行きがけの書生が奉公に住み込んだ。處が其家の婆クランクでステンヂーなので長く勤まりさうもないから一週間で暇取ッて出たが、給料は今日都合が悪いから明日取りに來いとのこと、早速翌日行けば今日も無いから明日と言ふ。又其の翌日出かけて行くと今日もないと言ふので奴さん少々ムッとして、そんなら何時拂うて呉れるのか、確たることを言へと言ったところ、何時とも確言出來ぬとの返事、可しお前は給料を拂はぬ積りかと言ふと Yes と高く明瞭と答へたので、奴さん怒るまいことか烈火の如くに怒ッて、何だ人に散々働かせて置いて給料を呉れぬ氣かと言へば『然り』とは、可しそんなら乃公にも覺悟がある、『愈、汝が支拂はぬならば吾輩は裁判所へ申出る』と言ッて詰め寄ると、『俺ら構はぬ仕方がない』と言うたので益〻怒り席を蹴立てゝ歸ッたさうだが、まさかに裁判所にも出られず、さればとて餘り強く言うて來たので再び催促にも行かれず、たうとう一

週間分の給料大枚日本金拾貳圓を棒に振ッて泣寢入りしてしまッたと云ふことだが、單にエースとノーの使ひ別けでも容易でないものだ。

一八　服　裝

○米國には禿頭の若紳士が多いが、これは始終帽子を冠ッて居るからだとのこと。眞僞の問題は別として、米人は一寸隣へ行くにも決して帽子を冠らぬことはない、イヤ冠らねば違警罪に問はるゝから否應なしに冠らねばならぬ譯。婦人などは他人の家に用達に行ッた時などでも帽子を脱らずに話をしてる事もある。レストランなどでは冠ッた儘平氣でパクついてる御方もゐらッしやる。

○帽子の種類も歐洲では猫も杓手もシルクハットなさうだが、米國では何かの事の有る時でもなければシルクハットは用ひぬ。大抵山高帽子で、書生や役

者か遊び人の様な若いハイカラ連が中折帽を冠ッて居る。夏は矢張麥藁帽かパナマ帽である。米國の婦人は帽子を大切にすること日本のお嬢様のお召物以上で、遠足歸りや遊散場の俄雨とても來たら、好箇のポンチ畫の材料である。

○男女悉く帽子を用ふる代りに傘は日本ほどは用ひぬ。無論日傘は女に限られて、我が邦の如く晴天に六尺男が蝙蝠傘をさしてるのなどは見られぬ。

○カラーは男女共に概してダブルの高いので、肥ッた人や老人などはルーズベルト式と云ふ極めて低いのを用ふる向もあるが、シングルは稀である。然し正式の時はシングルの前の折れたのに、ネクタイは白のボーダイに限るのなさうだ。

○頭髮は毬栗坊主は罪人だけで、大概は中央から左右に分けてるが、中には左から右のもある。

○ネクタイは正面へ出る前看板だから服装中最も注意さるゝ所である。從ッてハイカラな紳士となると二三十本も持ッて居て、寒暖晴雨に依ッて取代へらるゝは勿論、朝と夕との如く日光の陰晴に依ッてそれ〳〵變ッた色のを用ふる。色は多くは紅とか緋とか紫紺とか云ふ鮮かな華美なのが行はるゝ。形も正式なればなか〳〵矢釜敷く、アスコット形はフロックコートに、イングリッシュスクェア形は背廣服に、グラヂュエーテッド形は燕尾服に用ひて必ず白に限られ、蝶羽形はタキシードに用ひて必ず黑に限られ、フォールインハンド形はフロックコートか背廣に用ひらるゝと定まッては居るが、然し左様せなんても別段交番の前で巡公のお科めを受けるやうな事もないから、赤毛布諸君には先づどうてもよいやうなものだが、チョイと氣取り屋諸君へ御注意まで。

○シャーツは白も多いが縦縞のが尤も流行する。大抵は前の柔らかなのか襞積とッたので、ホワイトのフロント・シャーツは禮服を着る時か壯年以上の人にしか用ひられて居らぬ。

○手巾は男でも女でも、中流以上はリネンで普通は木綿の白。色ものや模様のあるのは下等で勞働者なんどが持ッて居る、絹物は卑しくて女郎か男妾に限る。下宿屋の下女なんかに色絲で刺繍ッた絹のハンカチーフをさも難有度さうに持ッてる者もあるが、普通の家庭には見られない。

○扇子は日本や支那から輸入されて居るが、多くは室内の裝飾にするか、婦人のみが裝飾品として携帶するに過ぎぬ。男子は決して之を携ふる者はない。これは室内に煽風器を置くか、又は床下に涼風製造機を据ゑ附けて置いて、其處から涼風を送る仕掛けになッてるから、西洋家屋は暑いことは暑いが凌ぎ易いのである。

○婦人は夏冬手袋を離さぬが、男子は夏は用ひぬ者が多い。外套は厚ッぽい

ものて、婦人のになると襟や袖に獵虎か又は獵虎擬ひの毛皮の附いてるのを着る。今は一般に長向きなのが流行するやうだ。

一九　ハイカラ

○例のお愛嬌な小波先生はハイカラを分類して、曰く老高襟、曰く既成高襟、曰く研究高襟、曰く超然高襟、曰く未成高襟、曰く私製高襟、なんどとやッてるが、定義はどうも學說がまだ一定して居らぬやうだ。未だ何處の大學てもハイカラー學の講座の設けある所がないので、無精者の吾輩はついぞ一度も研究をせなんだッた。

○ハイカラ頭にハイカラ髷、ハイカラ着物にハイカラ下駄、ハイカラ式部にハイカラ藝妓、ハイカラ土瓶にハイカラ火鉢と、何でも彼でもハイカラてないと夜も明けぬと云ふ有樣、今は實にハイカラの全盛時代てあるが、近頃は

ハイカラに輕薄、生意氣、若しくは氣障と云ふ樣な註釋も附いて來たやうてある。然し身分不相應の身形をしたり、知らぬことを知ッたふりしたり、囊中無一物の貧生でありながら金滿家に見せかけたり、淺學無識の徒が學者らしく信ぜさせやうとしたり、心は大慾張りて無慾の德人らしく見せたり、鍍金の時計や眼鏡を純金の樣に見せかけやうとするなどは、ハイカラてなく灰殼てある。

○要するにハイカラ黨は西洋心醉黨て、西洋文明の皮相に中毒し、欠伸の仕方から唾液の吐き方まても眞似する馬鹿氣た徒輩てあるのだ。之に對してハイカラ黨と全然反對の主義と意見とを有する者を糾合して彌次ッてる、所謂蠻カラ黨なるものがある。これは絕對の國粹保存論者のみて、洋行するにも和服、夜會にも上下着用と云ふ連中てある。然しながら是れ孰れも極端て弊害がある。吾輩の意見としては良く東西の風俗習慣を比較研究して、彼我共

に其の可なる所を取り其の不可なる所を捨て、改良すべきは改良し保存すべきは保存して置くが至當の事と信ずるから、茲に改めて不偏不黨なる中立黨の創立を宣言して置く。

○それから一寸我が邦のハイカラ先生に忠告して置くが、外を歩く時は必ず足並を揃へて歩くことが肝腎だ。米國などでは足並を亂して歩くなどは野暮の骨頂である。

二〇　髭

○日本では鼻下の八字はハイカラの方で、髭は紳士として缺く可からざる一要素の如く、紳士必ず髭無かる可からずと云ッたやうな有様であるが、米國では却ッてスムースとて無髯で剃ッた痕の青く劃然したのが持て囃されて居る。髭の有るのは土方か職人乃至は老紳士連で、青壯年の紳士は大抵髭なしで

ある。縱んば髭を生やすとしても、多くはカイゼル式にピンと跳ねるか刈髭で、若しも下でも向いてれば朝鮮風ぢやと言うて笑はれる。然し米國には婦人で髭のあるのが能くある。これは殊更蓄へるわけではなくッて、剃れば尙ほ濃くなるから其の儘にして置くのである。伊太利人の婦人などに多い。

○一體髭と云ふものは顏面の調和の上から見た所でチョイと好いもので、俗にも『馬鹿面にも髭』と言ふが、何處となく締りのあるやうに見えるものだから、濃厚な漆黑な立派な髭ならば大に蓄ふ可しであるが、有るか無きか頗る辨別に苦しむやうなのは寧ろ無きに如かずで、見ッともないから思ひ切ッてスパリと剃り落して貰ひたいものだ。

二一　訪問と御辭儀

○『時は金なり』と朝から晩まで一分一秒を爭うて抜け目なくやッてる國だけ

に、六尺ゆたかの有髯男子が白晝ノソリ〳〵と御無沙汰廻りと稱して、奥樣の鼻息窺ひに巡回するやうな阿房は居らぬ。こんな仕事は大抵妻君の受持ちとなッて居る。日本では妻たる者は内にのみ引籠ッて居るのが天分なるかの如く、其の名詞まで奥樣、内室、内儀、令閨などと稱へて、子供の世話が關の山として成る可く來訪者に應接面會するを避けて居るが、米國の妻君はどうしてなか〳〵、外出、訪問、來訪者の應接、子供の養育、僕婢の監督から日々の料理の買出し等、何から何まで一々御活動遊ばすのだから隨分多忙である。

○訪問の時間は、通例午後三時頃から五時頃迄となッて居る。特別の急用でもなければ午後の外は訪はぬ樣である。さて訪問には其れ〳〵定日があるから、其の日は應接室を綺麗に掃除し、生花を取換へなどして待ち設ける。だから日本のやうに、暫く御無沙汰したから其の後の安否を伺はうなどと樂ん

で出掛けると、肝腎な御本尊樣が御留守で、折角めかして大切な香水を惜し氣もなく振り撒いたのもアタラ晝餅に歸し、加之に車賃まで損となると云ふやうな大慘事は起らない。

○然し訪問者が來たからとて日本の如く、ソレ煙草盆、ヤレ茶だ、菓子だ、果ては酒だ飯だと云ふやうな複雜な待遇はせぬ。茶話會とか晩餐會とかとして案内招待する場合の外は、火の氣一つ茶一碗だに出しもせぬ。單に客室に打寄り、四方八方の談話に歡興を盡して歸るのみである。

○そして客を招待して御馳走する時でも、日本の如く主人と客とだけが奥深く陣取りましますやうなことはなく、家内一同一つの食卓に寄り集まッて賑やかに食事するのである。然し食卓は制限があるから多人數の時には立食のことがある。

○訪問の話の序に御辭儀の講釋もして置かう。西洋では頭を下げる代りに右

の手と右の手を握り合ッて、二つ三つ振ッてそれでお仕舞ひだが、日本人の御辭儀なるものはそんな冷淡な淺薄なものではない。互に頭を下げて最敬禮の交換をするので、其の優美にして慇懃なる、世界中恐らくこんな立派なのは何處にもあるまい。然し時候の挨拶をするにも二度も三度も同じ事を繰返して頭を下げて居られては、相手が頗る迷惑をする。モウ可い時分だと思ッて頭を上げると、まだ向ふが下げて居るから又周章て下げる、上げたり下げたり宛然米搗バッタのやうな不體裁を演ずることになるが、吾輩は玆に日本御辭儀改良の議案を提出して置く。曰く『御辭儀は對面の初め唯一回だけ嚴肅且つ丁寧に叩頭敬禮する事』。

二二　靴と靴磨

○靴は男も女も大抵紐附きの編上げ、黄皮と淺靴は夏向で、白のズック製の

は運動用、日本で流行る深ゴムは老人用か勞働靴である。女子の靴には一時踵の高いのが流行してあッたが今は中位のである。

○靴足袋はスポートな奴は、淺靴には絹地の上等で鮮やかな色合のものに刺繍のあるのを穿くが、普通は黑地が一番多く、白いのは婦人か女兒しか用ひない。靴は出來合が幾種となくあるから、幅も大さも能く足に合ッたのを求めることが出來る。

○日本の宿屋ではどんな泥靴でもチャシと磨いて呉れるが、米國の宿屋では如何なる上等の御客樣でも一切御構ひなし。其の代り大きなホテルや汽車汽船の待合室には無論のこと、町の辻々に靴磨き屋が居るから、何時でも隨處で磨かせることが出來る。其處へ行くと高い肱掛椅子を置くからこれに腰を掛けて、前に出てる鐵製の靴臺の上に兩足を突き出し、靴の踵を引き掛けて載せ、煙草を吹かしながら新聞か雜誌でも見て居る内に、磨き屋先生セッセ

と磨いて了ふ。其れが終むとコートから帽子外套までブラッシュアップして呉れる。磨き賃はシャインは五仙でポリッシュが拾仙である。是れは大抵黒ん坊か伊太利人の仕事である。

二三　風呂と便所

○風呂は日本の樣に一方から火を焚いて沸かす仕掛けでなく、沸いてる湯を鐵管で浴室に送るやうになッて居るから、捩子一つ捻れば湯が出て來る。冷水の鐵管も通じて居るので加減は浴客が隨意に出來る仕掛けになッて居る。浴槽は細長くて、仰向に寢ることも出來る。湯は一人毎に入れ替へるから頗る清潔で、日本のやうに湯の中からトラホームのバチルスや毛虱を背負ッて來るやうな憂はない。其の代り湯錢は普通貳拾五仙である。然し石鹸や手拭や垢取りブラッシュなどの綺麗なのが備へてあるから、我が邦のやうに七ツ

道具を持ッて歩く億劫はない。土耳其風呂とて有名なのがあるが、吾輩は經驗が無いから其の講釋はせぬ。唯其の湯錢が一浴日本金大枚五圓であると云ふことだけを請賣りて話して置く。

○便所は通例風呂場と同室になッて居る。便器は日本の汽車の中にあるやうな形で、其の上に楕圓形の大きな穴の明いてる板が上ッてる。其の穴の上にベタリとお尻を据ゑて構へ込む。小便の時は其の板を除けて用を達す。用が濟めば傍にブラ下ッてる鎖繩を引くか、便器の上のボタンを押せば裝置の鐵管から水が迸り出て不潔物を流し去る。腰を掛けて居るから何程長く居ッても草臥れもせねば、下から吹き上げる臭い風の爲めに鼻をつまらす心配もない。殊に洋服を著けては日本流に中腰で用を辨ずるは甚だ以て難儀であるが其の點は實に工合が良い。我が邦では建物は洋式を採用しても便所は依然として舊式な樣だが、せめては官廳とか學校又は停車場の便所などは是非併

置して貰ひたいものだ。

○それから共同便所だ。これは倫敦や巴里には辻々に設けてあるさうぢやが米國にはない。であるから外出する時は必ず自宅で濟まして出る。他人の家に行ッて便所はなどと問ふのは尾籠なことであるから、若し途中で催ほして來た場合には早速酒屋に入ッて辨ずるのである。元來酒屋は便所を公衆に貸す爲めに地代が安くなッて居るさうであるから、酒屋の便所は共同便所同樣に心得て差支ないのである。

○公園などには必ず共同便所の設置はあるが、巧みに設けられてあるので容易に見當らぬ位だ。然し共同便所がないからと云ッて電信柱の陰などで一寸失敬でもしやうものなら、五弗のお灸だから氣を付けねばならぬ。だが米國人だからとて出物腫物は時を嫌はずだ、日曜などに公園の人通り少き樹蔭の徑を逍遙してゐる其の途端、雲は衝かねど大兵肥滿の毛唐が薮蔭より荊棘を排

して悠々とやッて來るのに出會はすこともある。

二四　洗　濯

○西洋人は日本人の如く屢〻湯を浴みぬ代りに度々下着を取換へるから、日本人のやうに表の方が黑く汚れるまで洗濯せずに着て居る樣な者はない。彼等の生活上毎日用ひるものは、食卓掛、口拭、敷布、枕茵、手拭、手巾、寢卷、下着等、幾んど白いものばかりであるから、此等のものを屢〻洗濯する風があるので、家内の大勢なところでは洗濯物が澤山ある。故に常抱への洗濯夫を雇ッて置く家がなか〳〵ある。普通の家庭では、シャツ、カラーの如き硬糊物や、ドレッス類、又はシーツの樣な大きいものは洗濯屋へ出すが、大抵の洗濯物は自宅の下女に遣らするのである。

○洗濯屋と云うても需要の多いだけに、日本の洗濯婆樣が、皺手でゴシ〳〵

揉んで齒のない口で齒切りをしながら絞るやうな御苦勞はなく、蒸氣汽罐を据ゑ附けた大會社が、電力や蒸氣力を利用し機械を使ッて盛んにやッてる。集配は凡て馬車で(自働車でやッてる會社もある)、毎週廻る家は其れ〳〵其の日時まで定めて置くから頗る都合がよい。それにどんな汚れた物でも、三四日目には雪をも欺くやうな物にして持ッて來る。大きなホテルにてもなれば一夜の内にチャンと洗濯して呉れるから至極便利である。隨ッて月々の洗濯料は、日本などでは想像の及ばぬ位だ。先づ書生生活をして居る樣な者でも月二三弗、中等の獨身者でも夏冬平均して四五弗は要る。

○米國人はどちらかと言へば潔癖の方であるが、洗濯物だけは一向お構ひなして、手拭でも雑巾でも猿股でもハンカチーフでも一緒に浸して洗濯する。中には經水を拭ッた手拭を平氣で洗濯物の中へ押込んで置く者などもあるさうぢやが、洗濯屋先生如何に御商賣柄とはいへ、これにはチト閉口するだらう

て。

二五　床屋

○赤と白とをだんだら塗にした有平糖のやうな丸棒を床屋の看板にするのは東西少しも變ッて居らぬ。内部はてら〳〵と立派で、殊に正面の鏡は壁一杯の見事なのもある。刈る剃る洗ふが別々だがら、刈ッたきりて剃りも洗ひもせぬ者もある。刈る剃る洗ふが孰れも通例二十五仙宛て、三つ〆めて七十五仙。更に上等となれば一弗のところもある。皆體へ掛ける白布やタオルが洗ひたての綺麗薩張したものを用ふるから頗る氣持が好い。又顔を剃る時には椅子を横に伸ばすから、客は恰も安臥して剃らせるやうで至極心地が良い。

○米國の床屋では、剃ると云うても鼻の穴や耳の中を剃らぬは勿論、眉より上には一切剃刀を當てぬのである。これを知らぬ赤毛布先生床屋へ行ッて顔

を剃らしたが、一向眉毛の手入れをせぬから、先生指の先で頻りに眉毛を撫で、何やら命令するらしいので、剃手は暫く怪訝な顔をして見て居ッたが、忽ちこれは眉をも剃れと云うのだなと合點し、スッパリ剃り落して了ッたと云ふ珍談がある。これは嘘らしいやうな本當の話である。

○太平洋沿岸の都市で同胞の多く居る處には、日本人の床屋があッて御亭主が刈る山の神が剃ると云ふ工合に共稼ぎをやッて居る。代價も顔剃が十五仙刈る剃るで三十五仙位だから、日本人は勿論毛唐も勞働者などはやッて來る。

二六　巡　査

○米國の巡査と來たら馬鹿に大きくて丁度常陸山が梅ヶ谷の樣で、日本の巡査と比較したら全て大人と子供の違ひである。米國では巡査を採用するに、何事を差置いても先づ體格の偉大なのを取るので、何れも皆背は高し肥えて

は居るし實に見事なものである。ビールの看板のやうに腹の膨れた肥滿した雲衝くばかりの巨漢が、ビスマルクやモルトケ將軍の肖像にあるやうな山高のヘルメット形の冑の樣な帽子を被ッて、夏も冬も紺羅紗の詰襟のフロックコート式で金鈕釦附きの嚴めしい制服に、黑の皮帶を上着の上に締め、左の腰には必ず一呎五六吋の樫棒に紐の附いて居るものをさし込み、臀部のポッケットには丸込めのピストル一挺に手錠一對は必ず隱して置く。

○月給は八十弗から通例百弗で、最上は百二十弗であるが、市街鐵道車に無賃で乘ッたり、又米貨五仙以下の物ならば果物でも菓子でも煙草でも酒でも無代に徴發するの特權を有して居る。其の代り交番所などと云ふものがないから皆晝夜立番で、夜分など赤い角燈を下げて電信柱の蔭とか軒下などに行んでるところなどは可愛想である。

○米國の巡査は圖體は大きいが、柄の割には弱蟲である。「大男總身に智惠が

廻り兼ね」と云ッた様に敏捷でない。日本の巡査は柄こそ小兵なれ活躍自在て、どんな曲者でも一人で向ッて行くが、米國の巡査はそれだけの度胸はない。公衆から物を貰ふことや賄賂を取ることを當然のやうに思ッて居るが、それで道を問ふにも後に廻した掌の中に葉卷煙草の一本も握ませてやらねばなか〳〵動きもしない。其處へ行ッちや日本の巡査は給料は安いが、職務には忠實で親切で勇敢で、實に感心である。がどうもまだ官尊民卑の弊風を脱せず、動もすれば人民に對して威張り過ぎる風があるのはチト氣に食はぬ。

○又西洋人は一般に秩序を重んじ、殊に公德を尊んで能く巡査の命令を守り少しも我儘勝手に横道な事をせぬのは美風である。車馬往返の頻繁な處や肩摩轂擊の雜沓な場所でも、巡査が一擧手すれば凡ての車馬は停まるので、巡査は其の間の道の隙いたのを見て通行人を麼いて通し、後前の如く車馬を進ましむると云ふ工合、こんなところは誠に感服の至りである。

○それから巡査に『コラ〳〵一寸待て』などと雖何されたら必ず止まらねばならぬ。若し逃げ出すとか立ち止まらなければ、査公は直ぐにピストルで其の者を擊殺しても宜いと云ふドエライ權力を持ッて居るのである。

二七　違警罪

○違警罪は何も米國に限ッたことはない、我が邦にもあるのだが、米國のは少々負擔が重い。科料金の最高額が五弗である。五弗、正にこれ日本金の拾圓、如何に勞銀の高い米國でも兎に角大の男三日分の賃銀である。巡査の手加減て途中から解放さるゝとするも、一旦捕まッたら最後二三弗の徵發は免れぬのだ。

○サイド・ウオーク則ち市街の兩側に在る人道、それは切石を以て玻璃を以て漆喰を以てコンクリートを以て、甚だ綺麗に造られてある。常に引摺り歩

く婦人の裳を以て間斷なく拭掃除がされるので、澤々しくて我が國の板の間よりもまだ〳〵清潔である。從ッて此處に唾した時は五弗であるから、唾は必ず車道か溝にすべきである。又自轉車で人道を乘り廻すと、それが矢張り五弗である。其の他裸頭で市内を徜徉する者、ズボンの釦の外れ居る者、是れ亦五弗である。立小便の如きは言はずもがなで、二人乘りの馬車へ三人乘ッたからとて遣ッ付けられる處もある。

○序に米國の罪人拘引の方法を申上げると斯うだ。辻々には特別警官裝置の通報機があッて所用の際に警官が其の一點を押せば、時を移さず警察署から立派な二頭立の黑塗馬車で迎へに來て、犯罪者を護送して行くので、日本の樣に腰繩で査公同道徒歩で拘引するやうな不體裁を暴露しない。だから無賃で馬車に乘りたいなどゝ思ふ御人があらば、須らく米國へ行ッて街道に小便でもヒル可しだ。

二八　米人の喧嘩

○米國人の喧嘩はなか〳〵面白い。一言二言文句を並べ立ててる內、何ッちか氣の早い奴が頰ぺタでも一つビシャリとやれば、そこで喧嘩の序幕が開かれ、雙方二三歩後に引き下ッて上衣を脫ぎ、若し眼鏡をかけてゐる者なれば之を脫す。眼鏡を懸けた者と喧嘩をして顏面に負傷させると加害者の罪が重いから、敵手が若し眼鏡を其の儘で向ッて來たら必ず其れを取り脫させる。

○ボクシングのタイプで拳を固めて左手を顏の高さに上げ、臂を彎曲させて面部を防ぐ、右手は敵手の隙を窺ひ飛び込み樣、顏なり胸なり腹なり急所を狙ッて突き立てる。鼻血が出る、前齒が折れる、骨が挫ける。吾輩などは餘り喧嘩に趣味を持たぬので面白くも感ぜぬが、始まッたら彌次の多い國だけに、忽ち黑山の如くに集まッて來て見物してゐる。御當人達は合しては分れ

分れては合し眞劍にやるが、日本人の喧嘩の樣に下駄で毆り合ッたり睾丸を攫んだり、捻伏せて滅多打ちに打ッたり嚙んだりはせぬ。米國人は倒れた者を蹴ッたり毆ッたり睾丸を握ッたりすることは、最も卑怯として居るから、敵が倒れたら、再び起きて來るまで待ッて居る。決して敵の倒れた機會に乘ずる樣なことはせぬ。倒れたる敵手は再び立ち上り、猛然と勇を奮ッて相撲つ。そして又何れか打ち倒されると、起き上るのを待ッて居る。斯くしてどちらか奮鬪力が無くなれば、是に於て勝敗は決するので、此の時觀衆中の誰か、或は勝者が、倒れて居る敗者を引き起して砂を拂ッてやり雙方握手をして他意なきを示して立ち別れる。其の間朋友或は觀衆は搭鬪者の周圍を取り卷いて傍觀してるが、少しも聲援を與へぬし仲裁もせぬ。唯默ッて終りまで見て居る。時間も可也長く掛かるので、線香花火的の喧嘩に馴れた日本人には、餘りに悠長に過ぎて齒掻く思はるゝ程てあるが、一舉一動實に男らしく、

如何にも武士道的てある所は誠に感心てある。

二九　選　擧

○米國の選擧、是れなか〳〵の偉觀てある。市長、大統領、議員等、都て何れの選擧たるを問はず、其の當日は市民一般に靜肅を守り、一切の酒屋は休業閉鎖する。そして諸方の街角には、我が國に在る土木小屋みた樣の者が建てられて、其處が所謂選擧場てある。採票の結果は時々刻々市廳や新聞社の前へ掲示するので、其の附近はまるて人の浪が逆捲くやうな盛觀てある。大統領の任期は四年であるから比較的長いが、下院議員は二年であるし、それにヤレ州知事だヤレ市長だ州議員だなどと、始終選擧て騷いて居る樣てある。

○米國では辯士が演壇に現はるれば盛んに拍手喝采するが、我が邦の樣に演說中に拍手したり、矢鱈にヤ〳〵ヒヤ〳〵などと譯も分らずに下らぬ冷評

妨害を試むる者は見受けぬやうてある。

○選擧運動も可也に激烈ではあるが、何處やらの國の選擧騒動に比すれば遙かに秩序あり、公明正大なもので、其の戰略と云うても廣告印刷新聞紙演說等を利用して、正々堂々意見を主張し筆戰舌闘するの外、他には生臭き武器なく、腕力沙汰なく、高壓の蠻勇家なく、御馳走なく、「現ナマ」なく、又卑劣なる干渉も忌むべき援助もない。然し選擧の間際になると、有繋は政治思想の普及發達せる國とて、晩餐後の爐邊議會や山の神連の井戸端會議にも天晴れの政論家が多いのてある。

三〇 子供

○米國の子供は自助的精神が發達してるのか乃至は我慢が強いのか、日本の子供の樣には泣かない。子供だからランて泣かないと云ふのてはないが、日

本の子供の樣に轉がったと云ッては泣き、御菓子が欲しいと云ッては泣き、喫驚したと云ッては泣き、叱られたと云ッては泣く樣な泣蟲てはない。それに無邪氣て率直て、言ひたい事はドシ〳〵言ひ、仕たいと思ふ事は遠慮なくやる。決して日本の子供の樣に物怯ぢしたり、又は大人らしい糞仁義な眞似はせぬ。隨分惡戲好きてはあるが却ッて其の方が子供らしくて可愛らしい。

○日本の子供が、よく泣きたがる癖のあるのは、意志の教育が足らぬからてある。畢竟子供の剛情性を發揮若しくば涵養せしめぬからてある。例へば母親が子供に乳を呑ませるに、豫め時間を定めて呉れて居る處ても、子供が泣き出すと時間が來なくても仕方がないからと云うて子供に降參する樣になる。さうすると子供の方ては、此方て無理に乞ひさへすれば何時でも貰へるものと附け上ッて來る。凡てがこんな風であるから、日本の子供にとッては泣く事が唯一の武器てある。最後の勝利は泣くに限ると看取して居るからよ

く泣くのである。要するに子供の泣くのは意志が弱いからで、此の意志の弱いと云ふ事は其の罪親の敎育に歸せねばならぬ。俗にも「親馬鹿」と言ふが、子供は決して甘く育てる可きものではない。

○日本の小學校では、生徒をばまるでお人形でも取扱ふ樣にして居る、大人しくさせて雨天の時などは小さな敎場内に終日押込めて置く學校もあるが、これは發育盛りの元氣の旺盛な子供等の到底堪へ得べき事ではない。そして度を越えた活潑な事でもしやうものなら、直ぐ樣お目玉である。それにどちらかと云へば、意志の弱い子供や日向ボッコをやッてる樣な子供を、柔順いとか行儀が良いとかと喜んで居るのは餘り感心した事ではない。こんな子供は成人しても到底活社會の競爭場裡で奮鬪の出來ぬものである。子供と云ふものは生理上から見ても心理上から考へても、寧ろ騷ぎたがるが當然である。

○それから又日本の子供は、大抵申合せた樣に孰れも靑鼻汁を垂して居る。日本では鼻汁垂しは體が丈夫だなどと言ッてるが、醫學の進歩した今日、なにも鼻汁を垂らさなくても立派な健康增進法があるだらう。親たる者は少し氣を付けて貰ひたいものだ。米國の子供は如何に貧乏暮しても鼻汁だけは垂して居らぬ。

三一　アベコベ

○米國人は人を招ぐには日本の樣に手招ぎはせぬ、食指を眞直に立てゝ其れを內の方へ幾度も曲めて招ぐ。物を指すには食指を用ひずに母指でする。鼻汁をかむには兩手を用ひずに片手でかむ。下等な者になれば日本同樣所謂手鼻汁もかむやうだ。

○道を歩くに日本では左側勵行で、人込みの時などは査公が矢釜敷く左へ

〳〵と手を振ッてるが、米國では右へ〳〵だ。

○日本人は數を指て數へるに、一、二、三と片手の母指から順に折り屈めて行くが、米國人は左の手を擴げて出し、右の指て左の手の小指の方から一、二、三と一つ〳〵に數へて來て母指に終ると、今度は母指から食指中指と順に數へて行く。

○米國でも男の着物は日本同樣左衽だが、女のは大部分右衽である。

○着物を着けるにも米國人は、下シャッを着下ズボンを穿くと、直ぐ靴を穿く、それからホワイトシャッ、バンッ、カラー、ネクタイと云ふ順序であるが、日本人は反對に靴が一番お仕舞であるから、洋室ではベッドの上の御仕度はなか〳〵面倒である。

○鋸や鉋を使ふに日本人は皆手前へ引くが、米國人は反對に向ふへ押す。

○日本では他人に物を與るに、不味いが召上れとか、甚だ粗末なものですがなどと無暗矢鱈に謙遜するが、これではまるで、食ふに堪へぬ物を強ひたり、粗惡なるのを承知て遣ッたりするやうなもので、却ッて失敬である。それから自分の子を豚兒などと言ふが、子供が豚の兒なら自分は豚の親だ。謙遜も極端に行けば却ッて卑屈になる、何事も中庸を失はざるが肝腎である。

○それから日本では婦人の方から男子に向ッてプロポーズすることがあるが米國では必ず男子の方から婦人にプロポーズすることになッて居る。如何に婦人の方て思ッて居ても自分からはせずに、男子よりプロポーズせしむる樣に仕向けるのなさうだが、此等も矢張り女尊男卑とやらに原因するのだらう。

三二　女尊男卑

○男子は婦人よりも尊いといふ理窟もなければ、婦人が男子よりも尊いと云

ふ理窟もあるまい。男尊女卑と云ふ事は誠に野蠻極まることて、文明人種の爲すべき事ではない。然し米國の樣に極端の女尊男卑にも、實以て恐れ入らざるを得ぬ。凡て男子の婦人に對する態度は實に慇懃なものて、鞠躬如として唯其の及ばざるを是れ恐ると云ふ風て、殊に吾輩の樣な婦人に臆病な者は恰も新兵が士官に遇ふ時のやうな心持てある。

○家の内ては兎に角、苟も人目の及ぶ處ては自分の嬶でも決して粗末な待遇は出來ぬ。殊に甚だしきは靴の紐が解けたと云ッて細君が傲然反身になッてゐるに、亭主の野郎が平突這ッて其の御紐を結び奉るのや、外出する時何時もアベコベに亭主の方が細君に外套を着せてやるのなどは、外の見る目も憐れなものてある。

○女尊男卑の風習は、元これ婦人は男子より孱弱きものてあるから、可愛がッて遣ると云ふに外ならぬのてあるが、由來婦人と云ふ動物は己惚根性の强いものてあるから、其の度が過ぎると好い氣になッて附け上ッて、婦人は男子よりも先天的尊いものてあるなどと、途方途轍もない心得違ひの者も出て來る。これは結局婦人を無暗法外に可愛がり過ぎるに原因するのてある。亭主が細君の命を奉じてパンを買ひに走ッたり、肉を誂へに使したりするのなどを目擊すると、生來任俠の吾輩などは、此の不遇に沈淪する亭主の爲めに、一掬同情の涙を濺いてやりたくなる位てある。

○米國婦人は社會上にも亦多くの特權を有して居る。汽車や電車などても男子は婦人に席を讓るのが習慣て、若し一の空席なき處へ婦人が來ると、男子は立ち上ッて自席を讓る。公會の席上ても婦人の席の足らぬ時は、いくら先に占領して居ッた者ても之を讓らねばならぬ。こんな時には先取權も婦人に對しては除外例てある。又途上て相逢うた時などは、男子同志なれば握手て濟むが、婦人なれば必ず脱帽して禮をもせねばならぬ。けれども婦人は唯頤

て一寸答禮するばかりである。

○翻ッて日本の風習を見ると、これはまた極端なる男尊女卑である。男は威張らるゝだけ威張り、婦人は小さくならるゝだけ小さくなッて、亭主の言ふ事なら何でも御無理御尤もで盲從せなければならぬ。米國に居ッては亭主に同情を寄せねばならぬが、日本では却ッて細君が可愛想で堪らない。

○又西洋では食事の時などに大きな肉塊の燒物などを、食卓の上で旦那殿が切ッて、一々皆に分與するのを常とするが、外皮は焦げて居て美味くないから、一皮を剝いで內部の美味い所を細君に奉り、自分は外皮の焦げた所を食ふたりして居る。我が國の細君が飯の表面の冷めた所を自分が食べて、內部の溫かな所を且那樣に盛ると正にアベコベである。

○日本でも近來は見ッともない程細君を可愛がる以而非バイカラも見ゆれば又下女同樣の待遇をする豪傑連もあるやうだが、何も婦人だからとて亭主に

甘ッたれて、自分の出來る事まで一々夫の力を借るにも及ぶまいが、さて又亭主の方でも自分の荷物までも細君に持たせ、自分一人懷手して力んで居らなくも可からう。要は中庸を得るに如かずて、男子は婦人をいたはり婦人は男子に柔順に仕へて居れば、家內は安全天下は泰平である。

○それから夫婦間の言葉遣ひを見るに、我が國では明かに男尊女卑を證して居るが、米國では少なくも男女同樣である。我が國の風習では他人に向ッて話をする時に、夫は細君を『家內が』と言ひ細君は夫を『主人が』と言ひ、夫婦間のみでは『あなた』に對して『お前』とか『其方』とか言うて居るが、米國人は他人に向ッては自家の姓が幡隨院なれば、細君は夫を『幡隨院氏が』と言ひ、夫は細君を『幡隨院夫人が』と言ひ、夫婦間のみでは『おなべ』『長兵衛』など互に實名を呼んで居る。これが日本で細君が亭主を呼び捨てにでもしやうものなら早速大立廻りが始まるかも知れぬ。

三三　婦人

○色の白いは七難隠すといふが、西洋婦人は色が白いのみならず、目鼻立ちも良く整ッて居るが上に粉飾が極めて巧みで、兩の頰に薄く紅を塗ッたところなどは誠にアートフルである。日本の女が黑い首筋に白粉をベタ〳〵塗り附け、唇に紅を黑光りのする程つけるやうな拙劣なものではない。聲は日本人と違ッて腹の底からではなく喉から出て唇の働きでうまく調子をとるので、鴉の啼聲のやうなのは餘り聞かれぬ。色は白く碧眼で金髪と云ふのが美人の一大資格で、旱魃年の玉蜀黍のやうな赤髪は頭から問題にならぬ。カリフォルニア州は馬と美人の産地として有名なのなさうだが、道理で閻魔様が澁柿を食ッた様なものや、搗栗がくしやみをしたやうな女は金の草鞋で探し廻ッても見當らぬ。米國の婦人は一般に學問があるから氣位は高いが、氣輕で

快活だから交際が上手で、人をそらさぬ愛嬌や其の應待振りは到底素人とは思はれぬ。

○扨て斯く言へばなか〳〵見上げたものだが、それは唯直覺的の觀察で、其の實米國の婦人はお轉婆で生意氣で、出過ぎてお饒舌で、鐵面皮くッて高慢で、嫉妬やきで慾が深くて、無遠慮で無作法と來てるから手にをへぬ。それに近頃は男子同樣世の中へ出社張ッて、婦人の分際をも辨へず、政治運動などに熱狂する樣になッてはいやはや沙汰の限りである。

○吾輩は敢てオベッカる譯ではないが、容色は兎も角として日本婦人の起居動作の優美なる、何事も遠慮勝ちで何となく極りの惡さうな、そして羞かしさうな其の態度、如何にも私は女で御座いますからと言ッてるやうに閑雅なところ、實に得も言はれぬ美點であると思ふ。然しスタイルのスチートリーな所はどうしても比べものにならぬ。單に外觀より論ずれば、日本の美人は

顔の美人で姿の美人ではない。沈魚落雁閉月羞花などと言うたところで、洋裝でもさせやうものならポンチ畫の材料めく姿が多いやうである。どうしても日本婦人は室内的だ。

○又米國の婦人は、其の身は尊敬せらるゝものと自覺して居るから自ら氣取る、氣取るところに自ら一種の威嚴を生じて來る。斯かる風習が昔から永く〳〵續いて今日に至ッたのであるから、米國の婦人には一種のタイプが出來て居る。そして彼等は男子に尊敬せらるゝものと自信して居るから、男子の前には常に一種の威嚴を以て現はるゝのである。男子も亦決して此の婦人の習慣的特權を侵すやうな事はせぬ。活潑とお轉婆の分界線の爭の生ずるのも、畢竟こんな譯だからであるのだ。これには無論弊害もあるが、利害の兩面を考察した上に公平に判斷を下すときは、此の風習の善美なることを認めねばならぬ。由來婦人は美はしきものである、若して

れに侵す可からざる威嚴が無ければ、到底男子の玩弄物たるを免れぬ。『弱き者よ汝の名は女なり』と言ふやうな社會では、完全に兩性間の秩序を維持し善良の風俗を助長せしむることが出來るだらうか。日本現時の狀態は如何、悲い哉婦人は男子の玩弄物となッて居るではあるまいか。吾輩は好んで罪を他に稼せんとする者ではないが、男子の墮落は或る程度迄は確かに婦人の自重心が乏しいからであると信ぜざるを得ない。女尊男卑などとは以ての外のことではあるが、日本婦人たるものはいま少しく自重して、男子の侵害に堪へ得るだけの實力を養ッて貰ひたいものである。

○それから米國の婦人の泣き方が一種獨特で頗る振ッて居る。日本の婦人は通例鼻で泣くが、米國の婦人は立ッた儘天を仰いで兩肱を張り、拳て眼を蔽以肩を搖振ッて堂々と大々的に泣く。丁度日本の劍舞然たる泣き方である。

三四　男女の交際と結婚

○古來我が國では一般に結婚を輕視して、當事者相互の意志の如何を顧みない傾きがある。俗に『馬には乘ッて見よ人には添うて見よ』などゝ言ふが隨分危險千萬なる舊思想ではあるまいか。男子にもせよ女子にもせよ、一人前の人間になッた者が、自分の一生涯の苦樂の友を定むるに、自己の自由意志に出てずして、第三者の斡旋で話が始まるなどゝは可笑しな風習である。近來米國に在留する同胞と日本に於ける婦人との間に於て、盛んに取り組まるゝ寫眞結婚の如きは實に無鐵砲な遣り方だ。心の中が赤いか黑いか、顏付は人間の樣だか猿の樣だか、聲は鶯の啼く樣なのか鴉の啼く樣なのか、薩張り分らぬ同志で夫婦になるなどは隨分劍呑な話である。

○凡そ眞愛なき男女の結合は、自然に悖り人道に背くの甚だしきもの、決して永久に持續せらるべきものではない。最善なる結婚は熱切なる愛情を有する相思の男女の結合でなければならぬ、單に肉慾の快樂の爲めに戀愛を玩弄するが如きは斷じて斥けねばならぬ。古來悲劇の葛藤なるものが常に戀愛の上に在るを見ても、如何に結婚てふ事が重大であッて決して忽せにすべきものでないと云ふことが了解せらるゝであらう。

○米國の男女の交際は自由である、然し決して放恣に近き自由ではなく、嚴として制裁の存する自由である。始めて男女が交際を結ぶとすると、舞蹈會とかカルタ會の樣な場所で友人から紹介して貰ふ、そして氣があれば其の後も度々そんな機會を作ッて相互に交情を溫める、其の間に、互に相手方の品格や性質感情より趣味嗜好等も分り、意氣が投合して來れば、談は漸く佳境に進んで來る。そこで男子は女子の家を訪問して可いか否かを問ひ、女子が其の許諾を與へた時始めて女子の家に行ッて、其の父母に會見するのであ

る。勿論この場合には女子は先づ以て父母の承諾を得て、然る後自分の男友に訪問の許を與へねばならぬ。男子が女子の家を訪問した時、女子の父母の接待振りが良くて、『又御出なさい』など、御世辭の挨拶かあッたら占めたもの、其の後は男子は一週一度位づゝ訪問する。如何に行きたくても一週に二度も三度も行くは禮でない。斯くして追々交情が溫まれば、日曜などには相携へて公園の散歩も許され、時には芝居にも同行することが出來、料理屋にも共に行けば寺院の參詣も共にする。三度に一度は菓子も贈れば花も遣る。こんな工合で短きも半年長きは數年間も交際して居る內に、雙方の心がすッかり分ッて愈〻機の熟したと思ふ時、始めて男子より女子に向ッてプロポーズする。其の時女子は、自分が其の男子を信じて眞に愛して居れば早速承諾をする。若し又十分ラブして居らなかッたなら暫時の猶豫を請うて、自分の將來や結婚後の境遇等をよく熟慮し、其の男子と結婚すれば必ず樂しき生涯

を送ることが出來ると考が定まれば、乃ち男子に承諾の旨を告げる。其處で婚約の記念として、男子より約束の指環を女子に贈る。此の場合に父母は大抵異論を唱へるやうなことはないが、若し父母が承諾を與へぬ時には其の家を去ッて、自己の戀人と婚するの目的を遂行する者が多い。

○婚約後は公然のブライドとして友人間に待遇せられ、以前と引變へ度々女子の家を訪問するも自由で、又自分の家へ招待することも出來るのである。此の時代は實に前途の希望洋々として春の海の如く、夢に夢見る心地で暮らす最も愉快な時である。斯くして結婚後の生活の道が定まれば其處で始めて結婚するので、種々なる事情で婚約期の五年七年の長きに亘るのもあるが、婚約後は滅多な事で破約すると云ふやうなことはないさうだ。

○結婚の儀式は教會で牧師主宰の下に擧行するのであるが、至ッて簡單なものである。勿論式場には父母親戚親友などが會合し、牧師は新郎新婦の手と

手を握らしめ、自分の手を其の上に加へて、疾病破産其の他如何なる災難あるも、此の婦人を妻として保護する心でありますかとか何とか、何でも五六箇條を雙方に質問するのであるが、唯もうエース、エースと言へば濟むのである。牧師への御祝儀は五弗か十弗が相場なさうだ。

○男女一旦結婚すれば離婚すること甚だ難く、强ひて離別しやうとするには法廷で理非曲直を爭はねばならぬ。婦人の權力の素晴らしいだけに離婚の理由がなか〳〵面白い。曰く『私の亭主はどうも意氣地なしで將來の見込が立ちませんから離婚を致したう御座ります』、曰く『私の亭主は怠惰者で自分の職務に不忠實で毎日玉突きをして酒ばかり飲んで居りますから離婚を致したう御座ります』と云ッた調子の申立だ。こんな言ひ分で遣られた日には、日本の亭主は片ッ端から放逐の宣告をされやうが、さて日本の山の神樣はなか〳〵柔順なもので、野郎が毎日待合茶屋に漬け浸りになり家を外に遊んでも

正妻を差し措き外に妾婦を圍ひ置いても至極平穩、可愛想なのは斯うした國に生れ合せた婦人である。

○日本の刑法第三百五十三條には「有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス、其相姦スル者亦同ジ。此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ、但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ」とあッて、妻の姦通に對しては嚴重なる制裁があるが、夫の姦通に對しては妻は何等の制裁をも加ふることが出來ない。妻の破倫は勿論嚴重に罰するのが當然であるが、夫の不德を縱容するのは怪しからぬ。我が國で處女の操を破らるゝ者や未亡人の不倫行爲などの往々あるのは、畢竟こんな事に原因するのである。又違警罪第十條には「密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ」又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スと云ふ密賣淫者に關する罰則があるが、それも女郎ばかりを遣ッ付けて野郎を赦すか

ら何うしても其の跡を絶つことが出來ぬのだ。尤もこれは賣るから買ふやうなものゝ、矢張り挑むから賣るのであッて、買淫者の方でも大に責任があるとせねばならぬ。俗に喧嘩兩成敗と言ふ如く、吾輩はこれは雙方共に罰するが至當と思ふ。そして雙方共に罰すれば犯罪者の數を減ずるは確かである。

三五　婦人の職業

○米國に於て驚くのは婦人事務員の多いことである。到る處の會社商店事務所等は勿論、銀行郵便局官廳等に至るまで婦人の事務員を見ない處はない程で、商店の賣子ホテルの勘定方や電話掛りなどは皆幾んど婦人である。其の他小學中學の教師などは大部分婦人で、新聞記者などにもなか〳〵多い。女辯護士に女刑事女醫者なども居る。

○日本でも近來婦人の就職者が多くなッて來たやうだ。是れ誠に喜ばしき現

象ではあるが、餘りに多きに過ぎると隨ッて弊害の伴ふものである。婦人は天性まことに增長し易い性質のものであるから、假令僅の月給でも自活の途がつくやうになると、直ぐ慢心を起して男子を凌駕せんとし、遂には生涯婦人としての天職を全うし能はざる者や、婚期を過してたうとうお嫁の試驗に落第し、其の揚句は獨身論などと不自然極まる誤託を擔ぎ出して來るやうになる。これは婦人が氣位ばかり高くなッてるので、大概の男子を眼下に見下し、一生を定むべき肝腎な年輩に達しても矢鱈に高く止ッて遂に其の機會を失し、結局厭々ながら終生獨身で寂しき生涯を送るべく餘儀なくさるゝのだ。是れ米國に老嬢と云ふ一種の片輪者の多い理由である。

○然しながら我が國に於ても日進月歩生存競爭の激烈なるに伴れ、生活が困難になり晩婚の風が起ッて來るので、婦人の職業が勃興して來たのは蓋し時代の要求かも知れぬ。唯局に當る者は大に警戒して弊害を防ぎ、天禀の性に

反したる一種變則の婦人を拵へぬやうに注意せねばなるまい。

三六　醜業婦

○綺麗な着物を着たい、美味いものを食ひたい、芝居見に行きたい、然し働くのは厭やと云ふやうな、箸にも棒にもかゝらぬ女は、泥棒するか乞食をするか又は女郎にでもなるより外に仕方はない。だが泥棒のやうな荒仕事はチト危險だし、乞食も餘り體裁の好いものでないから、鳥渡澁皮のむけた奴はよく女郎になる。米國では表面賣淫を一の營業とは認めて居らぬから、女郎は何れも密賣淫婦であるが、自分の自由意志で營業して居るので、彼等は行きたい處に勝手に行き、止まりたい處に隨意に止まり、金があれば男妾も持てば贅澤もすると云ふ全くの自由で、日本の女郎の樣な束縛は決してない。そして日本の女郎は多くは親兄弟の爲めに身を苦界に沈めるのであるから、

大に同情すべき點もあるが、米國の女郎と來ては自分の放逸な生活を續けんが爲めに淫を鬻ぐので、言はゞ自分の道樂より墮落して居るやうなものであるから、其の心事は日本の女郎よりも遙かに醜劣である。

○吾輩は自身探險したことは無いが、女郎屋は外こそ見すぼらしいが、內部はなか〳〵綺麗で、大抵は中央に廊下があり、西側に小さく仕切ッた部屋が幾つとなく並び、それにカーテンが下ッて居て、內にはあだめいた姿に肌露はな衣を着け、臙脂粉黛濃かに粧ひなした媛御前が鎭座ましまして、朝に越人を送り夕に吳客を迎ふると云ふ調子なさうぢやが、中にはバーラーに幾十の艶女妖婦が煌星の如くに構へ込んでる所もある。

○我が國に女郎の居るのは國辱であると言ふ者がある。成る程絕對的理想觀よりすれば御尤もの御說であるが、悲哉今日の社會進化の程度に於ては、未だ醜業婦の存在を非認するまでに發達して居らぬ。世界何れの國と雖も、恐

らく醜業婦の存在せぬ所はあるまい。否却ッて外國に於ては、我よりも尙ほ甚だしいのである。唯之を默認すると公許するとの差あるのみ、實質に於ては一毫の違ひがない。目尻の下ッた助平な毛唐君、偶々日本の遊廓の盛況を見て人身賣買だなどと痩我慢して罵り、其の實涎を垂らしながらさも文明人らしく氣取るのを聞いて呆れる。蠻風だなどとはチャンチャラ可笑しい。

○公娼廢止、是れ理想論としては有難い御說ではあるが、實際論としては殆んど採るに足らぬ愚論である。生存競爭の激烈なるに伴れ益〻結婚の困難を告げ來るの今日、道德問題は暫く之を措き、風紀上吾輩は却ッて公娼存置の必要を認めざるを得ない。縱んば公娼を廢止したとするも、當然生じて來る私娼をば如何するか、忌はしき和姦の弊をば如何にして除却するか。殊に我が國の樣に個人の衞生思想の發達せぬ國では、其の害毒や實に恐る可きものあるは當然である。吾輩は別段奇を好むのではないが、公娼廢止論なぞを唱

へ出すに先だッて、先づ其れよりか悖德不倫な蓄妾の禁止運動をやッて貰ひたい。宗敎家などはこんな消極的手段に依らずして、もそッと積極的に各個人の道念を向上せしめて、社會をして醜業婦なぞの必要を認めざる位に進化せしめて貰ひたいものだ。

○又我が醜業婦の海外に在るは以ての外の國辱であるなどと言ふものもあるが、是れ亦餘り尻穴の小さな話である。これは何も日本人のみではない、試みに米國の女郎屋なるものを見給へ、殆んど各國婦人の展覽會場の樣な觀を呈して居るではないか、佛蘭西人あり、獨逸人あり、英蘭土人あり、愛蘭土人あり、西班牙人あり、葡萄牙人あり、露西亞人あり、黑ん坊も居れば白美人も居る、銅色人種も居ると云ふ有樣、其の間に黃色い顏のお多福が少し位混ッて居ッたからとて、別段おッ魂消るには當るまい。吾輩は其の何が故に國辱であるかと云ふ理由を發見するに苦しむ。在米同胞現時の組織狀態に

於ては、生理上當然の欲求として、醜業婦の存在を承認せざるを得ない。何處の世界に行ッたからとて男ダズンに女一人の割合の所はあるまい。在米同胞間の僞善者等が矯風運動などと屁理窟を附けて、醜業婦の掃蕩驅逐策を企てて居るが、是れ亦本末を顚倒したる机上の空論ぢや。

三七　世界人種の陳列場

○米國は新開國で又自由の天地であるだけに、世界のあらゆる人種を網羅して、恰も世界人種の陳列場のやうな觀を呈して居る。今四五の人種の品評をやッて見やう。先づ第一にアメリカの土人即ち亞米利加印度人は銅色人種で、コロムブスが印度の裏門と誤信したる好箇の記念で、主もに北米西北部の山地に棲息して居る。米國政府は特別の保護を與へては居るが、生存競爭の激烈なる今日、優勝劣敗適者生存の理を免れず、年々其の數が減少して行くやうてある。嬰兒を後向きにして木を刳ッた箱に入れて縛り附けた儘、唯手と首を動かし得るばかりにして背負ッて居る樣や、金巾更紗のやうな布片を身に纏ひ、頭には鳥の羽の帽子を被ッて足には革靴樣のものを穿ち、黃粉を以て顏を裝ひたる樣は、實に珍妙奇的烈である、

○猶太人、米國では一番卑められて居る人種ではあるが、數も多く且つ富豪も多く、到る處に散在して居る。商賣は巧みだが四倍も五倍も懸値を言ひ、イカものばかりを商ッて暴利を貪る樣は全く柳原以上てある。金にかけては一點の廉恥心もなく、狡猾て其の上吝嗇である。鼻が大きく鷲ッ鼻が此の人種の特徵てある。

○愛蘭土人、英國人中尤も出稼人の多いのは、アイリッシュてある。性格が下劣て陰險て、頑迷て執拗て、容貌も美てない。米國ては一般に鼻摘みされてる方だ。

○伊太利人、數に於ても勢力に於ても大したものだ。勞働者は賃銀が安くてよく稼ぎ、生活程度の低いことは日本人勞働者に劣らぬ。相貌何となく殺伐殘忍な樣で、婦人の男性的なる容貌は、人をチャームするやうな色氣に乏しい。

○和蘭人、葡萄牙人共に下等で無敎育で、貧乏で愚だから、米國人からは輕蔑視されて居る。

○露西亞人、米國に居るロスキーは隨分下等なもので、靴直し古着屋などに多いが、野卑な體をして黑い髯をむしやくしや生し、ウス野呂のやうな疑ひ深いやうな眼付をしてるところ、何となく恐ろしくて氣持の好いものでない。凡ての遣り方が北極の天氣の樣にどんよりとして居る。

○西班牙人、これはなか〳〵輕快で敏捷で、淡泊で且つ精悍であるが、國民としては十五六世紀時代の意氣は消え失せてる樣だ。然し婦人の美貌は有名

である。

○其の他英國人の何處となく奧床しい所、獨逸人の辛抱强くて貯蓄心に富める所、佛蘭西人の輕快で交際上手に能く意匠に長けてる所などは、今更茲に取り立てゝ申すまでもないことである。

三八　お嬰權助

○萬事に個人の權利を尊重する米國では、下女下男だからとて我が國の樣に終日ダラシなく使ふやうなことはせぬ。それに又雇人の方でも自分の職務を重んずることが甚だしくて、能く其の分を守る代りに分外の事は決してせぬ。だから雇人だからとて、毎日自分の受持の仕事さへ立派にして非難を受くることがなければ、手隙の時は新聞を見やうが午睡をしやうが各自の勝手で、主人は何等の容喙も干渉もせぬ。若し夫れ約束外の仕事でも命令された場合

には、却ッて逆に主人に劍突を食はすなど、日本の主從關係と違ッて、米國のお爨權助たる者の鼻息は大したものだ。

○雇傭契約をするにも我が國の如く、可い加減な口入屋の辯口などに乘せられて居らぬ。總てが直接談判て、給料の事、仕事向の事、一切明白に定めて置く。だから日本の樣に仕事に制限もなく、玄關番の書生と云ッても主人公の靴磨きやら走り使、坊ちやんの學校の送り迎へから子守までさせられて、朝から晩まで自由の體になることなく、學問も十分に出來ないと云ふやうな事はない。又其の契約と云ッても我が國の如く保證人連署の約定書などを差入れたりすることなく、全くの口頭で約定するだけである。

○給料は週給の所と月拂の所とあり、仕事の性質に依ッて異なるのだ。田舍の作男でも日本の樣に、暮勘定なんぞ云ふのは聞いたことがない。下女下男だからッて唯普通の傭はれ人て決して臣ではない。職務の外には平等て

あるから、總て對等て行くのが至當てある。

三九　奉公口の掛合

○家事的勞働に從事するには、其の住み込みの當初頗る嚴重なる交渉を重ねて、自己の仕事の上に必要なる件々を取り極めるのが例てある。被雇人の立場よりして雇主に對し嚴重なる交渉などとは、或は不穩當かも知れぬなどとは日本流の解釋て、米國ては一向流行らない事だ。南北戰爭てふ名譽ある歷史を持てッる米人は、其の雇人に對しても人種を認むるのてある。否却ッて交渉すべき事を交渉せずに等閑にするやうな者こそ、自己の權利を拋つ者として馬鹿にコキ使はるゝのてある。此の交渉が在米の同胞間に掛合と稱へられて居る。つまり極りきッた事を念を押すに過ぎないのだ。

○勞銀額と支給日、勞働の種別と順序、勞働の時間、日曜と食事、寢室の有

無より雇主の家族の員數等に至るまで調べるのである。就中寢室の有無の如き、其れが有るとならば、直ちに其の臨見を要求することが必要である。ベリー、ナイス、ルームなどと云うても、終日電燈か瓦斯でも點ぜねば本も見られぬやうな室や、卓も無い處も無いではない。それから仕事の性質に依ッて食事の有無も質さねばならぬ。樣子慣れぬ日本人の耳には頗る可笑しくも聞えるのであるが、米國にはアウトルーム又はアウトミールなどと言ッて、寢室も食事も其の備はれた家で給與しない種類の働きがあるからである。

四〇　スクール・ボーイ

○これは自己の勞働時間中に通學の時間の貰へる働口で、よく日本人の苦學生が從事して居る。先づざッと日本の書生の樣なものである。通例朝八時半頃から學校に出掛けて、夕方は四時頃迄に歸宅するのだ。それて給料は一週

貳弗から貳弗半位が普通である。然し料理でも良く出來る者となればサイドの仕事が附かずに、一週參弗から四弗位まで支給する所もある。其の仕事としては朝は一家の人々より少し早く起き、ストーブに火を焚き付け鐵瓶に水を入れて仕掛ける。湯の沸く間に表の階段やサイドウオークの掃除を仕舞ひ食卓に御膳立を卒へて再び臺所に戻り、ストーブの火の加減をなしマッシュを拵へ、コーフヰーを入れトーストを燒き、ミルクを溫めなどして待つ間程なく、細君がやッて來ていろ〳〵指圖をする。頓て一家族が食卓に揃ふと、茹玉子でも煎玉子でも、又は揚玉子、ハム、ベーコン等、鳥渡したものは何でも御需めに依ッて作らねばならぬ。そして自分も共に食卓に着いて朝餉を認めたならば、其の跡を片付けて臺所まで運び下げた儘、自分は自分の辨當の用意して、通學の時刻が來たら後は一切お構ひなし、假令如何なる用事を命ぜられても斷然拒絶して、サッサと學校へ出掛けるのだ。其の代り

に學校が終ッたら道草なんぞ食はずに早速歸宅しないと、細君は時間を計ッて待ッてるのだから頗る矢釜しい。兎角日本人は情實を顧慮し事に當ッて逡巡する癖あるが爲め、動もすれば人後に落つるのであるが、吾輩なども自覺して居ッて手強く出來ないのは甚だ遺憾である。殊に毛唐に對しては詰らない遠慮會釋は絶對に無用だ、謙遜は美德ではあれ度を過ごせば卑屈になッて却ッて馬鹿にされる原となる。

○却説又歸宅後の仕事は、先づ形の如くストーブを焚きつけて湯を沸す、其の間に洗はずに出掛けた朝の食器や中食時に汚された食器の一切を纏め、臺所の掃除などしてる內に湯が沸く。食器を洗ふ、拭く、晩餐の御膳立をする頓て細君が出て來て料理に取り掛かる。手傳ふ、出來上る、給仕をする、自分も共にパク付くと云ふ事になる。食事終ッて七時半か八時頃に臺所の後片附が濟む、其處で一日の勞務は段落がつくと云ふ譯。それから翌日の朝まで

は全然自分の體になる勘定であるから、其の日の學科の溫習や翌日の豫習をして樂々とベッドに入るのである。

○一週間の中月火水木金の五日は、毎日唯如上の事を繰り返すに過ぎないが土曜日となると米國では何處の學校も休業であるから、時こそ來れと一週間分の大掃除をやらせられる。寢臺の掃除からタオルやナプキンの洗濯、ケッチンのスクラップに窓拭き磨き物、果ては庭園の掃除まで無暗とさせられる。其の代り翌日曜日は例の安息日の國風で、大抵の家では二食だから朝寢も二時間位は出來る譯、十時頃に朝餉をすまして後は野となれ山となれ、終日の御暇！之を日本の召使や書生が朝から晩まで追ひ使はれた揚句、三杯目にはソッと出さねばならぬやうな意氣地のないのに較べれば、まるで雲と泥月と鼈ほどの差違である。

○而して又此のスクールボーイは、一面種々なる市內勞働の見習と謂ッても

可いのである。朝夕白人に親しんでるので言語の熟達も速く、白人家庭の工合や人情風俗の一般を會得することが出來、料理の仕方やアイヨンの掛け方までも覺えることが出來るのみならず、少し親切な家になると暇の時にはレデーがリーダーの讀み方を敎へて呉れるなど、グリーンボーイの爲めにも至極都合の良い働口であるのだ。

○處が近來は眞黑々な田舍勞働者が、一時の腰掛け乃至は冬扶持食ひなどにノコ〳〵やッて來るので、痛く白人雇主の氣受けが惡くなッて來たやうである。本職のスクールボーイたる者緊褌一番大に警戒して、自家領域の侵害に備をせにやなるまい。

四一　同胞の家內勞働

○米國に居る日本人の家內勞働者が從事して居る仕事は多種多樣であるが、

先づ大別すれば三つとなる。即ち家內の雜役掃除に從ふもの、給仕、玄關番、扈從等の職を執るもの、及び料理其の他臺所の用向き一切を行ふもの等である。何れの仕事でも長短得失のあるもので一概には言へぬが、單に勞力と收入とを比較すれば、野外勞働よりは割がよい樣だ。勞力の關係上家內勞働者は多くは掌の柔らかな書生連中が多いやうである。

○家內勞働は鐵道や農園の樣な荒仕事ではないから、服裝も綺麗にして居ることが出來てチョイと品が良いが、何分にも都會といふ不道德の誘惑力尤も强い所に住するが上に、朝夕な權式高い米國婦人の機嫌氣づまを窺はねばならぬ境遇に居ることとて、不知不識の間に雇人根性てふ卑屈の精神を持つやうになり、慰藉の絕えたる異域の事とて寂寞に堪へざるの結果、內に屈する氣を外に向ッて發散しやうとして、つい面白からぬ場所へも出入するやうになる。それに金錢上に餘り暢氣なので、日本に於けるが如くに甚だしく貯

蓄の必要も感ぜぬところから、日々の收入は酒色や賭博に費して、知らず識らず墮落の淵に沈みつゝある者が甚だ多い。渡米後十年、紅顔の青年もはや中老の境に入って、然かも嚢中一金の貯へもなく又學業も進まず、相變らず前掛黨とか十年坊とかと呼ばれて漂浪してるものもなか〳〵多いのである。然し中には腕一本を資本として刻苦精勵の結果、或は商店を開き、或は農園を經營し、又は請負事業に從事する等、着々として堅實なる基礎を築きつゝある者を見るは、實に感服の至りである。今左に家内勞働に就いて二三の講釋を仕らう。

⊙ハウスウオーク、其の名の如く家の仕事で、否應なしにさせらるゝ家内の雜役であるが、言はゞ家内勞働の修業働きとも云ふべきものであるから、誰でも一度は此の辛き經驗を嘗めねばならぬのだ。給料は大抵月二十弗から三十弗迄である。中には三十弗から四十弗も支給する所もあれど、これは名稱で

そハウスウオークだが、萬端經驗を要する所謂生拔勞働者の働口である。

○西洋室の掃除は、日本室の様に日に何度と掃くのぢやない代りになか〳〵御丁寧だ。先づ備へ附けの道具は一々拂塵若くは柔かい布の様なもので塵埃を拭ひ取り、此等を一時次の間か又は便宜の處へ出して置いて、敷物を箒で掃き、次に敷物掃てこするのだが、ホールなどの様な汚れッぽい所は新聞紙を水に浸して之を絞り、小さくちぎって撒き散らして掃く、斯うやれば決して塵が立たないのだ。又窓を拭くには別段面倒な事はない、布なり踩皮なりを以て、水でも石油でもアンモニヤでも何でも構はぬ、勝手なものをつけて拭く、グラスに一點の曇りなく透明になりさへすれば其れで可い。それから皿洗ひだが、是れ亦自ら一定の順序に依らねば、非常に時間と手數とを損することとなる。先づ第一に水飲や茶飲茶碗の如きものを洗ひ、次にシルバー類や脂肪の附いた皿小鉢、最後に小鍋類と云ふ順だが、洗ふには石鹸

を用ひるから脂肪は綺麗に落ちて了ふ。

○扨てこんな雜役に三四箇月か半年もこき使はれる内に、一通り家内の仕事の工合を呑み込み、白人家庭の有様や彼等の習慣風俗の一般をも會得し、日常の仕事に差支ないだけの會話をも修得することが出來る。勿論會話と言ッても文法上からは寸毫の價値もないが、當人が實利實益上に享くる便益は、完全なる博言博士のそれよりも却ッて尊く、もはや三寸不爛の舌は能く手足を勞するに及ばずして、高給の賃銀を得ることが出來るのである。斯くなれば占めたもの、到る處働き口に窮する樣なことはない。

○ウエーター、日本の所謂お給仕である。日本では給仕は女と定ッて居るが米國などでは大部分男である。だからそこに同胞勞働者の需要があるわけである。食事に關して食堂の用を總て辨ずるのが本務であるが、約束の如何には依ッては、來客の取次や家内の掃除、又は料理の方をも兼ぬる者もある。專

門のウエーターになれば氣兼があッて蒼蠅いやうなものゝ、勞力の點に於ては實に樂なもので、先づナプキンの洗濯位が關の山、其の代り食堂内の勤務はなか〳〵に矢釜しいのである。ウエーターは仕事の性質上、第一に風采を良く調へねばならぬ。髯は毎日剃る、髮も十日に一度は刈らねばならぬ、齒は常に清潔にして指は美しく、カラーは毎日取換へ、ネクタイやシャーツは純白なるを要し、折目の正しいズボンを穿ち、起居動作すべて閑雅にやらねばならぬ。給料は月二十五弗から三十五弗位迄が相場である。ホテルやレストラントの樣な所のは、服裝や動作に面倒臭い注文はないが馬鹿に忙しい。それで給料は大抵一週七八弗から十弗位までなやうだ。

○クック、一口に料理人と言ッても白人家庭の其れやホテル、レストラント等の商賣屋のは無論の事、船に乘組む者、田舍のキャンプに働く者、鐵道工事車に稼ぐ者等なか〳〵多方面である。そして其の種別の如きも、プレーン、

サード、セコンド、チーフ等の等級があるが、誰でも始めは臺所の雜役で、息をもつかせず散々に働かせられるが、少し小慧しく立廻ッて略ぼ半年も追ひまはされれば、品物の名前や一寸した料理法位は覺えるから、十分ではないが兎も角一人前のクックとして月三十弗や三十五弗は貰ふことが出來るやうになる。其の後は自分の腕次第で、五六十弗乃至は百弗も百五十弗も取ッて居る者もある。我が同胞家内勞働者の大部分は則ちこのクックなのである。

○其の他玄關番、子守、扈從、賣子、書記、昇降機手、擔夫、酌男、皿洗人、洗濯夫、寢室掃除人、園藝師等種々あるが、何れ讀んで字の如くであるから、知ッた振りしてくど〳〵しく並べ立てる必要もあるまい。

四二　キャンプ

○「聞いたより見て驚いたキャンプ哉」とは吾輩が始めてキャンプを見舞うた時に駄句ッたもの、素より俳句でもヘナでも樽でもないが、兎に角聞いて居ッたよりも見ては尙更驚いたと云ふことなのだ。

○物置の樣な小屋の樣な若くはマッチ箱のやうな棟割長屋のやうなのが、無數に不規則に且つ沒趣味殺風景に並んで居る。これがキャンプ則ち勞働者諸君の尊體を安置し奉る宮殿の外觀である。多くは耕作用の馬と同居を爲して夜半の夢を枕頭に響く馬匹の小便の音に破らるゝが如き、敢て珍らしくもない樣な所に起き伏して居るのだ。そして其の棟割長屋や納屋の前には、餘り綺麗でもない洗濯物が矢鱈に綱に吊して乾してある。

○内部に入ればこれはしたり恰も押入れ同樣で、立てば頭を裏板に打ッ付け

る様な狹い所に枯草を敷き、アンペラて蔽うた其の上に蒲團や毛布を敷き詰めた所謂萬年ベッドが並んて居る。これぞ我が在米同胞田園勞働者の終日の疲勞を慰する寢所なのだ。頭の方の少し上には小さな棚があッて其の上にはランプ、齒磨、楊子、櫛、鏡、ペン、インキなどが雜然として群居してる。垢に汚れた枕の傍には小說雜誌講談本などそれは實に種々雜多て、『我輩は猫である』が見えるかと思へば『荒木又右衞門』や『國定忠次』などもある、自然派の作物と重なッて精神修養論だとか英雄崇拜論とか云ッた樣なものもあり隨分奇觀を呈して居る。又枕頭の柳行李の上には、父母兄弟の寫眞を飾り、本の間よりは意中の人が心を籠めての贈り物なる栞も見える。横の引窓の下には、淡窓の「不道他鄕苦心多——君汲潺流我拾薪」の詩の書いてあるのが幽かに讀み得らるゝなど、大言壯語の中にも常に故鄕を戀ひ偲ぶ彼等の心が懷ひやらるゝのである。實にや一度キャンプを訪ひし者は、彼等が嘗て鄕に

在りたるの時に思ひ至りて、一掬同情の涙を濺がざる者はあるまい。

四三　百姓と鐵道工夫

○百姓と言へば煽てに乘ッて糞を攫ませらるゝ者とばかり思はば大なる誤り米國の百姓働きは靴を穿いて手袋を嵌めて、洋服を着て帽子を被ッて手足には泥の付くてはなし、無論糞の臭を嗅いだり小便柄杓を擔ぐ必要もない。乘るに馬あり、運ぶに荷車あり、食ふに肉あり、大威張りに威張ッて一日參圓乃至は四圓の金が手に入る冥加さ、世界中何處にそんな處があるか、勞働者の極樂淨土と謂ふも決して過言ではない。殊に萬頃一碧茫々として際涯なき沃野も、心掛け次第では其の幾分の割前に預かることが出來るのだ。最も市內の勞働に較ぶれば野外の勞働は概して疲勞が多い、然しこれを日本の百姓勞働や其の生活と比較したならば、口に不便疲勞を言ふが如きは、勿體なさ

の至り境遇の冥利を辨べざる増長漢の寢言である。

○日本などでは鐵道工夫と言へば、概して骨格逞しく鬼をも拉ぎ兼ねまじき者のみであるから、如何にも非常なる體力を要する勞働の樣に思はれるが、米國の鐵道工夫は必ずしもさうではない。一日拾時間を土塊と砂利と枕木とを相手にし、シャヴルを以てピッケを以てハンカーに附纏うて暮らすのである。仕事本來の性質から見ればなか〳〵難い働きであるが、實際は至って樂だ。否樂ではないが樂にやるのだ。學生や職人や中には日本に於て筆や算盤の外持ったことのない人々が平氣でやってる所から見ても決して困難な仕事ではない。唯時間の中は秩序を亂さずコッ〳〵とやらねばならぬが御苦勞な位である。

○然し日々の勞働が單調で無意味なるに搗て〻加へて、身は是れ天涯の旅客且暮の情朝夕の心話相手になる友達とてなく、周圍の者の多數は實にお話に

ならない種類の人物ばかりであるから、從來の境遇將た其の人の身分の如何に依っては到底辛抱の出來ない場合も多々あるのである。其の代り勞銀費消の道が甚だ不便で、一箇の煙草一袋の菓子を購ふにも尙ほ且つ二三哩も、遠ければ十哩も行かねばならぬ場所さへあるところから、他の勞働に比し賃銀は低廉ではあれ、堅氣の者は否應なしに勞銀全部が貯蓄されるのである。だが其の徒然と無趣味とは勢賭博の樣なものの流行を促すので、ギャングなどでは常に無一文で暮らして居る者もある。

○それから在米同胞の勞働者氣質を謠うた面白い歌がある。曰く、

Yes Sir, Yes Madam, All right で
蓄めたお金を清さんの
香港銀行に送り込み
殘るお金で馬鹿票！

と。これは家内勞働をして鍋の底を叩き、又は眞黑焦けになッて野良働きをして、やう〳〵溜めたお金を賭博や富籤で支那人に捲き上げられ、遲蒔きに氣が附いて目の覺める頃は嚢中餘す所幾何もなしになッて居るので、イエ〳〵忌々しいどうせ斯うなりや運試し、一か八か遣ッて見ろて、馬鹿票と云ふ御法度になッてる富籤を買うて見ると云ふ意てある。

四四　月給取

○亞米利加は金のある國だけに月給もなか〳〵高い。先づ大統領が年俸五萬弗、副大統領が八千弗、上下兩院議員は五千弗てある。生活程度が高いからして下級月給取の收入も、日本などとはテンで比較にならぬ。巡査が月八十弗から百二十弗まて、郵便配達夫ても六七十弗位、商店の書記が五十弗から百五十弗位迄の間、先づザットこんなものてあるが、唯奇なるは小學校教師

の俸給が極めて低く、下等勞働者のそれにも及ばないのてある。

	小學教師一年の俸給	市街掃除人一年の給料
	弗	弗
ニューヨーク	五四〇	六三一
ボストン	五五二	六〇三
ヒラデルヒヤ	四七〇	五〇三
サンフランシスコ	六〇〇	七五〇
シヤートル	五五〇	六九七
シンシナチ	四〇〇	四九三
ニューヘブン	三〇〇	五三四
パーリントン	二一六	四五〇

○右の表は數年前の統計てあるが、實に不可解の現象と言ッても可い位だ。而もこれが比較的敎師を優遇する都會の給料てある。田舍の小學校にてもな

ると更に驚く程の低給て、ペンシルヴァニヤ州などては一週五弗なさうだ。高等學校の教員の給料ですら平均年額九百弗て、巡査に及ばざること遙に遠く、丁度鐵工職人の收入位てある。それてあッて掃除夫や職工を志望する者は少く、溥給な教師の職を望む者が多くて、何時でも娘一人に婿八人の有樣てあるさうだ。尤もこれは小學教師が殆んど全部婦人てあるからてもあらうが、また一面確かに黄金以外に高尚なる或るものを欲求する樣になッて來たからてある。

○拜金宗國と評さるゝ米國ても、近來は富豪の子女等が、よく歐洲の貧乏貴族と緣組みをするやうになッて來たが、金に飽きれば矢張り名譽とか地位とかと云ふものが欲しくなるのは、東西少しも變ッたことはないものと見える。然し君子國を以て自任する我が國て、近來教育者連が濫りに增俸運動をやッたり、又は教育ある婦人などに金と心中する者が追々出來て來る樣だが、是

れ大に反省す可き事てはあるまいか。

四五　勞働組合

○米國ては同業同職の勞働者が、それ〳〵組合を組織して資本家に對峙して居る。これが則ち勞働組合なるもので、米國の名物の一つてある。抑も勞働團體と云ふものは歐洲各國ても昔は一揆徒黨として處置せられたので、今より八九十年前に英吉利國會が始めて之を法律て認めたのが嚆矢てある。然し他の諸國ではまだ其れを適法のものとは認めなかッたが、十九世紀の後半になッて製造所は段々大きくなり、各種の會社が其れ〳〵に資本を集め、斯くて資本の方は資本集中の勢を成して來た。之に對して勞働者の方ても、各人個々に働いて居るだけではいろ〳〵不利益がある所から、自然勞力を集中することが必要となり、遂に組合を作り團體を作るやうになッて、獨立て働く

のを止めて一體の働きをするやうになッたので、是れは兩方共に頗る都合の好い事であるから、追々各國ともに法律を以て認める樣になッたのだ。

○處が此の對立の上に段々と弊害を生じて來た。其れは元々資本と勞力とは利益の性質を異にして居るから、相爭ふ傾向を有するものである、相衝突し易いものである。そこで勞働團體の方では成る丈け共同一致して資本主を苦めて、勞働時間を短くし賃銀を高くしやうと試みる。資本家の方では別に得易き勞力さへあれば、何時たりとも其れを得て勞働團體を苦しめやうと常に心掛け、相對して壘を成し矛を交へると云ふ樣な有樣が時々見える。大同盟罷工の如きに至ッて隨分激しい爭があり、時に軍隊をも繰り出すと云ふやうなことも敢て珍らしくもない位。これが熟練を要せざる車力や土方の樣な勞働者ならば、雇主はこれが爲め別段甚だしい不利益を蒙るやうなこともないが、熟練を要する勞働者の組合となれば、罷工者は常に優勢の地位に立つの

だ。そして罷工中は組合の本部から其の積立金の幾分宛を支給して、生活に窮せしめぬやうな工合になッて居るので、それはなか〳〵大した勢力なもので、米國の樣な普通選擧の國では政治上にも偉大なる勢力を有して居る。

○是れは元英國から始まッて遂に米國に及ぼしたのであるが、米國に於ける發達は實に著しく、サンフランシスコなどは勞働組合の會員七萬と號して居る。此の七萬の勞働者が團體を組んで、外から入り來る勞働者は、自國の者も六箇月程居住した後でなくば、組合に入ることを許さぬとか、何々の條件に從はねば勞働に就くことを許さぬとか云ッて、それは素晴らしい勢だ。日本人などは無論寄せ付けぬどころか常に排斥を叫んで居る。時々後前見ずの無茶な事を遣らかして官憲の手を煩はすことも少なくないので、今や資本家と勞働者との調和は米國産業界の大問題として、政治家實業家の頭腦を惱まして居るのである。

四六　世界第一

○米國人は何でも彼でも世界第一を誇りたがる癖がある。だから米國を旅行した人は、誰でも到るところに世界第一の包圍攻撃で其の挨拶に閉口するだらう。だが其の中でも眞實正銘の世界第一は、先づ長さ四千餘哩のミスシッピー河、面積三萬二千哩のシューペリオル湖、カリフォルニヤ州のマンモス樹が高さ三百七十六呎直徑三十四呎、大釣橋はニューヨークとブルクリンとの間に架せるもので長さ五千九百八十呎、大鐵橋はグレート・ソートレーキに架せるもので長さが四十餘哩、建物の一番高いは紐育のイクタブル生命保險會社で高さが九百呎、地下室共に六十二層、大棧橋は桑港の對岸オークランドに在るもので長さ二哩、それから長さが二百五十呎、幅が百二十五呎、高さが七十五呎ある。ユタ州ソートレーキ市のモルモン宗本山の大殿堂に在る

オルガンなどは懸値なしの世界第一である。

四七　年中行事

○New Year's Day——元旦の佳辰を祝するの風は、曆日の相違こそあれ遠く紀元前三千年の其の昔バビロニヤ朝よりの遺風で、獨り東洋のみならず、歐洲各國は勿論米國でも行はれて居る。然し文明多忙の今日我が國の樣に悠長にやッても居られぬので、單に除夜（New Year's Eve）より元日にかけて祝するのみである。大晦日の晩は、各商店とも商ひもする、男女老幼亦徹夜同樣に歩き廻る。此の夜に限ッて市中を散歩せる婦人などに對し、細かに刻んだ赤や青やの紙片を雪球のやうにして投げかけ、或は窃かに白紙を其の背後に貼り附ける。又ヤンキーの餓鬼太郎共、玩具（おもちゃ）の喇叭を持ッて來て不意に人の耳元でプップク〳〵吹き立てる、各所で盛んに爆竹を轟發せしめる。其

の他、若い男共が娘連に巫山戯たり、大供がキャッ〳〵と子供に調戯ったりする様な事が皆默許せらるゝので、隨分罪なき惡戯が演ぜらるゝ。それに十二時には各敎會の鐘がゴンゴン一時に鳴り、各工場の汽笛は一齊にボーボー響き渡るので、米國の除夜の光景は實に觀ものだ。

○一夜明ければ元旦となるが、何處も頗る閑靜で、日本の樣に緣の門松に七五三飾り、日章旗が翩々と飜ッて朝日に映ずると云ふやうな風雅な趣もなく、屠蘇に雜煮の御馳走もなく、唯日曜日より少し御馳走の多い位、我々日本人には何となく淋しく物足らぬ感がする。

○元旦の賀客や賀狀の往復も日本の樣に頻繁ではない。クリスマスの時にMerry Christmas, and Happy New Year!のカードを贈ッて一緒にやッて了ふので、新年は寧ろ閑却されてるやうな有樣で、日本のやうに賑かなことはない。

○St. Valentines Day——二月十四日は聖ヴァレンタイン・デーと云うて、紀元二百七十一年の此の月此の日、聖僧ヴァレンタインが殉難寂滅した日とか。此の日恰も鳥が交尾し始めたとかの緣喜に因んで、今尙ほ青年男女が匿名で艶書やカードを贈ることが流行する。繪葉書屋などでは二月の初旬からヴァレンタイン・カードを賣り出す。中には此の日の興を添へる爲めに、艶書の御稽古をやらせる學校などもあるさうだが、飛んだ習慣もあればあッたものだ。

○Washington Birth Day.——二月二十二日は米國の國父ワシントンの誕生日で、救主として尊ばるゝリンコンの誕生日二月十二日と共に國祭日の一である。我が國では歷史上の偉人や祖先を記念するに死んだ日を以てするが、西洋人は反對に生れた日を以てする。從ッて誕生日には盛んに御祝するので小學校の生徒同志ですらも思ひ〳〵の品物を贈ッたり、又は友人達が寄ッて

掛ッて日本の胴上げに類じた背叩きをして御祝する。誕生日の晩には近隣の遊び仲間や學校の親友などを招待して、自ら主人公となッて御馳走をすると云ふ風だ。

○で米國民は此の日一般に業務を休んで祝意を表する。時には兵隊の行列や擬戰演習などを行ふ所もある。米國人は平素よく國旗を室内に飾ッて置くが、祭日だからッて之を戸外に出すといふ事はせぬし、市中は日本の祭日のやうに提灯などの裝飾もなく、車馬の音も平日のやうに聞えぬから割合に寂しい。

○April Fool's Day——「四月馬鹿日」と名けて、此の日に限り家族親友間相互に馬鹿にし合ひ、諧謔的惡戯を演ずることが許されて居るのである。此の習慣は遠い昔から歐洲に行はれ、今では歐米一般に行はれ居るさうぢやが、馬鹿げた遺習もあッたものだ。財布を途上に遺棄し其の一端に糸を結び附けて置いて、之を拾ひ上げやうとする者でもあると、糸を引張ッて驚かすなどは一寸御愛嬌だ。ボール箱に鉋屑を入れてさも勿體らしく包んで贈物にしたり、御苦勞にも煉瓦を小荷物にして送ッたりするやうな罪なき仕方はまだしも、隨分思ひ切ッた惡戯や大仕掛けの洒落を演ずる者もある。

○May Day——五月一日をメーデーと稱し、恰も我が節句の樣なものである。此の祝祭の起原は、昔羅馬人が此の日を卜して、フロラと云ふ花や果實を主宰する女神を祭る爲め、野外でいろ〳〵の演戯をやッたのに始まり、其の遺風がまだ歐米各國に存して居るのだ。此の日には五月柱とて種々なる野花やリボンを以て飾り立てた高い竿を野外に樹て、又別に五月女皇とて容顔花のやうな少女に花冠を着せたものを其の側に添へ、一同が其の周圍を繞ッて踊るので、丁度日本の盆踊りに類して居るが、盆踊りの其れに比ぶれば輕快で且つ頗る優美である。

○招魂祭 Decarution Day —— 五月三十日は、南北戰爭で戰歿した人々の亡靈を祭る爲め、到る處盛大なる招魂祭を執行するのだ。軍人や學生達の行列のある所もあるが、一般市民が手に花を携へて戰死者ならぬ祖先や知友の墓詣りもするので、恰も我が國の盂蘭盆の樣な光景を呈する。

○獨立祭 Independent Day —— 却ッて Fourth of July と言へば三つ子でも知ッてる。一千七百七十六年七月四日、米國々會が米國今日の基を開いた獨立宣言書を發布したるを記念せんが爲め、擧國盛んに祝する大祭日である。少年男女等は此の日盛んに爆發煙火を弄ぶので、都市村落到る處蹶々と百雷の落つるが如く、硝煙天地を蔽うて實に凄まじき勢である。これが爲め火災や火傷者を出すことも少なくないさうだ。遠く米國建國の昔に溯ッて考ふれば、自由平等を標榜し獨立建國の歴史を誇りとする彼等米國人が、殆んど熱狂的に此の大記念日を祝するのも決して無理ならぬことである。

○勞働祭 Labour Day —— これは九月第一の月曜日、勞働者の示威的運動會とも云ふべき事を催す日で、日本人には一寸耳新らしく聞えるが、勞働神聖を金言として居る米國では國祭日(レガル、ホリデー)の一として數へられてある。此の日は官衙銀行會社等は勿論學校までも業を休み、全國の都市に於て勞働者の大會がある。大工、左官、鍛冶屋、洗濯屋、ペンキ塗師、機關師、裁縫師、料理人等何でも御座れ、各〻其の職業に依ッて部署を分けて、無慮幾十萬の勞働者が隊伍を整へ、堂々と市中を練り歩く樣なか〳〵盛觀である。

○加盟祭 Admission Day. —— 今を去ること百餘年前米國が獨立を宣言した時は、聯合國は僅かに十三州であッたが今は四十八州と云ふ實に驚くべき膨脹である。加州や其の他の三十餘州は皆後から聯合に加盟したので、各州とも其の日を以てアドミッション・デーと稱へて祝意を表するのだ。言はゞ其の州に於ける日本の紀元節見たいなものである。加州では九月九日であるが、

年々州内主要の都市で週番に大祭を擧行する。此の大祭に當ッた都市では種々なる趣向を凝らし、全市を裝飾して大騒ぎをやる。

○感謝祭 Thanksgiving Day——毎年十一月最後の木曜日と定まッて居る。

これは一千六百二十年の十一月、清教徒(ピューリタン)が遙々海を渡ッて新大陸に移住を企て、新英州はプリマウスに始めて上陸した其の移住者が、翌年最初の收穫を得た時に喜んで、神恩を感謝せんが爲めに祝典を催したのに起因するものて始めは單に東部諸州に限られて居たのてあッたが、今より五十年ばかり前から國祭日(ナショナルホリデー)として米國一般に行はれるやうになッた。此の日の御馳走には必ず七面鳥(ターキー)を缺く可からざるものとして居る。其の理由(いはれ)を聞くに、移住者の祖先がプリマウスに上陸した時に、一帶無人の荒野て住するに家なく喰ふに食なく饑寒に苦しんだ時、幸にも多くの七面鳥(ターキー)が棲息して居ッたのて、これぞ天與の糧(かて)てあると欣んて其の肉を食ひ、辛うじて飢餓を免れたと云ふ故事に基

くのてあるさうぢや。

○耶蘇降誕祭 Christmas——十二月二十五日、これは單に米國のみならず、何れの基督教國ても祝ふことて、我が國などても近來盛んな樣てある。米國では新年には左程てもないが、クリスマスには親戚知友の間に祝詞の交換をなし、一年中最も愉快な御芽出度い日となッて居る。平常物品の贈答をせぬのは米國人の風習であるが、クリスマスには親戚知己の間又は家内の子女や召使共、又は懇意の郵便配達人に御歳暮と云ッた風の御祝儀を與ふる習慣があるから、二三週間も前から遣繰算段(やりくりさんだん)に腐心する細君連も多い。

○扨て當日はクリスマス・ツリーとて我が國の檜(ひのき)か樅(もみ)の樹の樣な常綠樹(エバーグリーン)を座敷内に立て、其の枝に玩具や人形や彩色した小蠟燭などを吊るす。早く言はゞ我が國の門松と餅花をゴッタにしたやうなものてある。此の日の正餐には、兄弟姉妹等の緣に繫がる者が一同親族中の長者の家に打ち寄ッて會食するを

例として居る。夜は招宴を開き舞踏會を催す向もあり、又は骨牌會などを開いて夜更しする樣な趣向もある。教會などはアベコベに餘興の方が盛んで宛然芝居小屋みたやうだ。此のクリスマスの前夜は白髮紅衣のサンタクローズ翁が澤山の御土產を持って煙突から御入來遊ばす譯なので、子供等などは宵の內から氣が揉めてろく〳〵安眠も出來ならざうぢや。

○此の外 Grand Army of Republic. Knight Templars. Old Fellow. General Election Day等もある。

渡米者必携 米國事情 終

米國事情

定價金參拾錢

明治四十五年四月十八日印刷
明治四十五年四月二十二日發行

著作者 植村寅

發行者 山縣操
東京府下北豐島郡巢鴨町大字上駒込十九番地

印刷者 藤本兼吉
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 內外出版協會
東京北豐島郡巢鴨町大字上駒込二十番地
電話下谷四百三十八番
振替貯金口座東京三五五番

不許複製

偉人研究

リンコン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第一編）畔上賢造編著
トルストイ	言行録	郵定價金参拾四錢	（第二編）中里介山編著
ガーフィールド	言行録	郵定價金参拾四錢	（第三編）中里介山編著
フランクリン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第四編）中里介山編著
グラッドストン	言行録	郵定價金貳拾四錢五	（第五編）畔上賢造編著
二宮尊德	言行録	郵定價金参拾四錢	（第六編）中里介山編著
ローズヴェルト	言行録	郵定價金参拾四錢	（第七編）吉川潤二郎編著
ワシントン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第八編）百島操編著
山鹿素行	言行録	郵定價金参拾四錢	（第九編）渡邊修二郎編著
中江藤樹	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十編）中里介山編著
貝原益軒	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十一編）秋山悟庵編著
ルーテル	言行録	郵定價金四拾四錢	（第十二編）松本赳編著

版元　東京巣鴨町上駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番

内外出版協會

偉人研究

大石良雄	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十三編）渡邊修二郎編著
聖德太子	言行録	郵定價金貳拾四錢五	（第十四編）秋山悟庵編著
吉田松陰	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十五編）五十嵐越郎編著
渡邊崋山	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十六編）渡邊修二郎編著
熊澤蕃山	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十七編）本田無外編著
新井白石	言行録	郵定價金四拾四錢	（第十八編）渡邊修二郎編著
ナポレオン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第十九編）藤吉喜一編著
ネルソン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第二十編）松本赳編著
ウェリントン	言行録	郵定價金参拾四錢	（第二十一編）室田有編著
日蓮上人	言行録	郵定價金参拾四錢	（第二十二編）大屋德城編著
ペスタロッチ	言行録	郵定價金参拾四錢	（第二十三編）田中豐松編著
ゴールドン	言行録	郵定價金四拾四錢	（第二十四編）百島操編著

版元　東京巣鴨町上駒込二十二番地　振替貯金東京三百五十五番

内外出版協會

偉人研究

（第二十五編）姉齒準平編著　郵定價金四拾錢
リヴィングストン言行錄

（第二十六編）槇不二夫編著　郵定價金貳拾五錢
藤仁齋言行錄

（第二十七編）本田無外編著　郵定價金參拾錢
伊藤元禪師言行錄

（第二十八編）河面仙四郎編著　郵定價金參拾錢
道元禪師言行錄

（第二十九編）西脇玉峰編著　郵定價金參拾錢
ロムウエル言行錄

（第三十編）松原至文編著　郵定價金貳拾五錢
諸葛孔明言行錄

（第三十一編）大屋德城編著　郵定價金四拾錢
親鸞聖人言行錄

（第三十二編）渡邊修二郎編著　郵定價金參拾錢
弘法大師言行錄

（第三十三編）廣瀨勘次郎編著　郵定價金參拾錢
德川光圀言行錄

（第三十四編）秋山悟庵編著　郵定價金參拾錢
フレーベル言行錄

（第三十五編）村田犀川編著　郵定價金參拾錢
林子平言行錄

（第三十六編）北畠竹之助編著　郵定價金參拾錢
佐久間象山言行錄

（第三十七編）本田無外編著　郵定價金參拾錢
西郷隆盛言行錄

（第三十八編）松原至文編著　郵定價金貳拾五錢
法然上人言行錄

（第三十九編）廣瀨勘次郎編著　郵定價金參拾錢
ガリバルヂ言行錄

（第四十編）松本赳編著　郵定價金參拾錢
マホメット言行錄

（第四十一編）丸島敬編著　郵定價金參拾錢
本居宣長言行錄

（第四十二編）秋山悟庵編著　郵定價金參拾錢
上杉鷹山言行錄

（第四十三編）杉原三省編著　郵定價金參拾錢
高野長英言行錄

（第四十四編）勝水瓊泉編著　郵定價金貳拾五錢
大鹽平八郎言行錄

（第四十五編）大屋德城編著　郵定價金參拾錢
傳教大師言行錄

（第四十六編）田中豐松編著　郵定價金參拾錢
シーザー言行錄

（第四十七編）佐久間原編著　郵定價金參拾錢
シェークスピア言行錄

（第四十八編）渡邊芳雄編著　郵定價金參拾錢
ラスキン言行錄

版元　東京巢鴨町上駒込二十番地　振替貯金東京三百五十五番　内外出版協會

偉人研究

（第二十五編）姉齒準平編著　郵定價金四拾錢
リヴィングストン言行錄

（第二十六編）槇不二夫編著　郵定價金貳拾五錢
藤仁齋言行錄

（第二十七編）本田無外編著　郵定價金參拾錢
伊藤元禪師言行錄

（第二十八編）河面仙四郎編著　郵定價金參拾錢
道元禪師言行錄

（第二十九編）西脇玉峰編著　郵定價金參拾錢
ロムウエル言行錄

（第三十編）松原至文編著　郵定價金貳拾五錢
諸葛孔明言行錄

（第三十一編）大屋德城編著　郵定價金四拾錢
親鸞聖人言行錄

（第三十二編）渡邊修二郎編著　郵定價金參拾錢
弘法大師言行錄

（第三十三編）廣瀨勘次郎編著　郵定價金參拾錢
德川光圀言行錄

（第三十四編）秋山悟庵編著　郵定價金參拾錢
フレーベル言行錄

（第三十五編）村田犀川編著　郵定價金參拾錢
林子平言行錄

（第三十六編）北畠竹之助編著　郵定價金參拾錢
佐久間象山言行錄

（第三十七編）本田無外編著　郵定價金參拾錢
西郷隆盛言行錄

（第三十八編）松原至文編著　郵定價金貳拾五錢
法然上人言行錄

（第三十九編）廣瀨勘次郎編著　郵定價金參拾錢
ガリバルヂ言行錄

（第四十編）松本赳編著　郵定價金參拾錢
マホメット言行錄

（第四十一編）丸島敬編著　郵定價金參拾錢
本居宣長言行錄

（第四十二編）秋山悟庵編著　郵定價金參拾錢
上杉鷹山言行錄

（第四十三編）杉原三省編著　郵定價金參拾錢
高野長英言行錄

（第四十四編）勝水瓊泉編著　郵定價金貳拾五錢
大鹽平八郎言行錄

（第四十五編）大屋德城編著　郵定價金參拾錢
傳教大師言行錄

（第四十六編）田中豐松編著　郵定價金參拾錢
シーザー言行錄

（第四十七編）佐久間原編著　郵定價金參拾錢
シェークスピア言行錄

（第四十八編）渡邊芳雄編著　郵定價金參拾錢
ラスキン言行錄

版元　東京巢鴨町上駒込二十番地　振替貯金東京三百五十五番　内外出版協會

偉人研究

（第四十九編）武安衛編著　孟子言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十編）吉川潤二郎編著　ビスマルク言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十一編）丸島敬編著　平田篤胤言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十二編）田中豐松編著　ヱヂソン言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十三編）本田無外編著　白河樂翁言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十四編）高橋淡水編著　福澤諭吉言行錄　定價金貳拾四錢　郵税四錢

（第五十五編）永代靜雄編著　新島襄言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十六編）渡邊修二郎編著　大久保利通言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十七編）渡邊芳雄編著　王陽明言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第五十八編）大橋長一郎編著　山崎闇齋言行錄　定價金貳拾四錢　郵税四錢

（第五十九編）杉原三省編著　藤田東湖言行錄　定價金貳拾四錢　郵税四錢

（第六十編）高橋淡水編著　賴山陽言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

元版　東京振替貯金口座巢鴨町上駒込二十五番地　內外出版協會　東京三百三十五番地

偉人研究

（第六十一編）横山雄偉編著　セシル・ローズ言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第六十二編）井口丑二編著　豐臣秀吉言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第六十三編）森近運平編著　ジョン・ハワード言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第六十四編）服部俊崖編著　白隱和尚言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

（第六十五編）中島筑水編著　菅原道眞言行錄　定價金參拾四錢　郵税四錢

『偉人研究』は第六十五編を以て完結す。全部取揃へ御註文の節には金拾五圓六拾錢（郵税共）とす。但し既に本叢書中の數卷特價割引して全部御購集を願ひがたきに依り、拾册以上一時に御註文の際に限り定價の二割引とす。此の貴重なる叢書は、永久に生命を有す可く、若し全部を完備せられなば、誠に得難き藏書たる可し。全國都鄙大小圖書館の統計は、本叢書が最多數の閲覽者を有することを示し、其の及ぼし得たる感化の少からざりしことは、態々書を本會に寄せて謝意を表せらるゝ方々の書狀が山積せし一事を以ても察知し得べし。茲に全部完成に際して愛讀者諸君の眷顧を謝す。

元版　東京振替貯金口座巢鴨町上駒込二十五番地　內外出版協會　東京三百三十五番地

佐々木邦譯

いたづら小僧日記

第二十一版
定價金四拾錢
郵稅四錢

續いたづら小僧日記

（第十版）
定價金參拾錢
郵稅四錢

おてんば娘日記

（第十二版）
定價金參拾錢
郵稅四錢

▲『東京朝日新聞』曰く

夏目漱石氏の「我輩ハ猫デアル」と同工にして異曲其て人の頤を解かしむる所は此れ却て彼に優る所あり、天下の奇書也。

▲『文藝倶樂部』曰く、いよ〳〵出て、奇拔なるいたづら、讀みて頤を解かざる者なけむ。夏目漱石氏の『猫』に隨喜せし人々は必ずや此書を繙きて多大の興味を感受すべく、實に近來稀に見る珍書と謂ふべし。

▲『新佛教』曰く、實に面白い、讀んでは吹き出し、又讀んでは吹き出す、實に奇想天外より來る底のもので、飜譯とは云へど文章輕妙にして警句に富み、全く飜譯離れがして居る。今日の日本の文壇で、この位のものを書き得る者は、先づ漱石か楚人冠位だらう。

▲『笑』曰く、事端の繁きだけいたづらは愈々奇拔になりて、面白きこと限りなし。記者も之を讀み行くうち自然の失笑を禁じ能はず、傍人より何がそんなに面白きかと聞かれたり。近頃珍らしき愉快なる書と謂ふべし。

▲『東京日々』亦曰く

奇想天外より落ち來る所漱石の「我輩ハ猫」以上なり。譯文巧妙、凡て創作の風致あり。辛き世に笑ひたき人は一讀すべし。

版元　東京巢鴨町上駒込二十番地　振替口座東京三百五十五番　內外出版協會

博士マーデン原著　文學士竹村修譯述

立志論

定價　金壹圓五拾錢　小包郵稅　拾貳錢

◉本書は彼の"Pushing to the Front"を少しも省略する所なく飜譯したるものにして、他日全部完結の上は浩瀚なる書と爲るべし。譯者竹村氏は夙にスマイルス氏の『品性論』を譯せり。漢學の素養不淺と見え其の譯文は確かりしたるものなり。殊に本書の如きは雄健活潑なる原文の精神を能く寫し、行文明快にして且つ雄勁なり、されば飜譯の臭味は少しも無く誰にても其の文意を了解するを得べし。……（中外英字新聞）

◉有名なる『アッシング、ツー、ゼ、フロント』の譯書なり。マーデン氏が活動的生活を鼓吹する實際的教育家なることは既に世の知る所にして、本書の如きは青年を皷舞奬勵して發奮勉勵せしむるの良著たるのみならず行文流暢引例快活にして趣味津々たる好讀物たるを失はず。加ふるに譯文も亦穩健勁捷その宜しきを得て原著の精神を躍如たらしむるものあり、眞に青年は勿論、青年子弟を教育せんとする者にとりて無比の良書なり……（帝國教育）

版元　東京巢鴨町上駒込二十番地　振替貯金東京三百五十五番　內外出版協會

スマイルス五大著書

▲穩健着實の大教訓▲德性涵養の好讀本

▲獨立自營の活模範▲名士感化の原動力

職分論　金壹圓五拾錢　小包郵稅拾貳錢

品性論　金壹圓五拾錢　小包郵稅拾貳錢

勤儉論　金壹圓五拾錢　小包郵稅拾貳錢

自助論　金壹圓五拾錢　小包郵稅拾貳錢

勞働論　金壹圓五拾錢　小包郵稅拾貳錢

元版　東京鴨巢町上駒込二百三十五番地　振替貯金東京三百五十五番　內外出版協會

渡邊英語叢書は英語自修者無二の好參考書なり。英語を全く解せざりし人にして、此の叢書を唯一の師友として、獨學大成せし實例多し。

渡邊修二郎編　英語獨案內

定價金四拾錢　郵稅四錢

日本人渡邊セリースと云ふべきもの、一編にして、綴字發音文法和歩を主として述べたり。殊に發音副等は宇音學者により互に相違あること多きを慨み專ら標本として歐米學校の教科書として用ひらるゝ諸書に據りて一一に倣せざらんことを旨としたるなど、以て著者の用意を見るべし。又原語には必ず和譯を施し、發音は凡て假名を附して曉り易からしむるを旨としたる、而して其の敍述の體裁が整然として錯まらず、親切にして丁寧、痒き處に手の屆く如き編輯振りは、初學者の爲に何より重寶なるべし。

渡邊修二郎編　英和日用會話

定價金四拾錢　郵稅四錢

太平洋　初學者の爲めに會話を講じたるものにして、初めに談話法を略敍す、それより對譯を掲げたり。第一部には外國語、挨拶、新年、時候、天氣、時間、食事、訪問、散歩、遊戯、健康、學校、電車、汽車、日用雜話等の諸項目あり。第二部には洋行、稅關、旅館、借室、諸買物等を始めとし、稍特別の用事に關する會話あり。第三部には單語の分類を掲ぐ。內容斬新にして且正則なる、世の無雜なる書籍と其類を異にす。

出版元　東京鴨巢町上駒込二百三十五番地　振替貯金東京三百五十五番　內外出版協會

渡邊修二郎編

英和書翰文例

定價金參拾五錢
郵稅四錢

渡邊修二郎編

英語作文便覽

定價金五拾錢
郵稅四錢

在米國の我が同胞は、英語研究の爲に常に渡邊英語叢書を座右の伴侶とする者多し。

是れ本叢書が實用に適する好き證明なり。

新公論 由來日本の學生が學校にて譯せらるゝ英作文なるものは紀行にあらざれば雜錄的の文學のみにして、日常の書翰文に至りては全く其の力に乏しく、高等なる學校の卒業生すら往々日常往復の文を認め得ざるは、吾人の風に遺憾とせる所なりき。而しかるに此缺陷を補足せんが爲めに最も適切なるものにして、其の收むる所は書翰文の例式より說き起して、作例應用等日常一般の用に足るべき歐洲文士の手に成れる模範的書翰文を以てせり。實に今の英學生に向つては此上なき著書と云ふべし。

大阪時事新報 渡邊修二郎氏の近著に係る。分つて二部となし、第一部に於ては文章の組織文典熟語の用法等を講じ、第二部に於ては文例を示して、專ら新聞體の記事、電信掲示廣告等、日用諸般の作文法を講述したり。以て注意の周到なるを見るべく、中學程度の英學者には好指針なるべし。

出版元 東京巢鴨町上駒込二十三番地 振替口座東京三百五十五番 內外出版協會

在米國北澤寅之助 成澤金兵衛合著 定價四拾錢（郵稅四錢）

增補第八版成る

新撰渡米案內

總フリガナ附

英學生評 我國に於ては、大學卒業生すら月收五十圓の位置は容易に得難き今日、太平洋といふ少し大きな池を越えて北米の彼岸に行けば、徒手空拳にして一日二三圓の收入を得ること容易なれば、有爲の青年が續々渡米を企つるは道理にて、且つ頗る喜ぶべき現象なるが、さて彼地に渡るには如何なる手續きに因るべきや、この問題の答へは多くの青年の知らんと欲する所にして、既に其答へを與へたる書も數種世に行はれ居ることなるが、此書も亦其一にして最新なるだけに最も完全に必要なる智識を供給しあれば、渡米希望者にとりて便利至極の書なりといふべし。文章は平易にして面白く書かれあり、著者は共に渡米の經驗あり、其一人は七年間彼地にありしといへば、其訓ふる所は一々信頼するに足らん。

中外英字新聞評 其標題の如く渡米者の心得として殆ど一も漏らす所なく、眞に痒き處に手の屆くとは此書の謂ひなるべし。渡米の利益、渡米者の心得、英語の事、旅券の事、必要金並に携帶品、出發、上陸、事業、修業、スクールボーイ、學校の有樣、風俗等は內容の重もなるもの、又附錄として掲げたる米國雜話は實驗談として面白く、外に外國旅券規則其他の規則種々を掲ぐ。

出版元 東京巢鴨町上駒込二十三番地 振替口座東京三百五十五番 內外出版協會

339
67

形影生著

米國苦學實記

定價金五拾錢　郵税四錢

▲『時事新報』評――著者が米國に苦學中の經歴を叙述したるもの、『苦學の初一年』、『夏期勞働』、『米國田舍大學の生活』等に分たれ、或る時はスクールボーイとなり、又或る時は下宿屋の雇人となり、去つては教會生活をなし、又は皿洗ひ、給仕等、日々月々に移り行く生活狀況を日記的にものして、中には失敗談もあれば、滑稽や惡戯に亘る物語もある。以て邦人が米國苦學中の狀態を推察するに足るべく、渡米を思ひ立てる青年には良き參考なるべし。

▲『東京日々新聞』評――給仕もやれば料理番にもなる、日傭稼ぎもやればスクールボーイにもなつた著者の實驗を達者な筆で面白く書いてある。在米苦學生の有樣がよく分明るばかりでなく、家庭の事情や學生々活の模樣なども推察される中に、無謀な苦學生の渡米に對し、事實上から注意を加へた個所などもあつて、本の割には讀みでがある。

▲『開拓者』評――中流以上の家庭に育ち相當の學校を出でし著者は、一朝渡米を思ひ立ち、上陸後種々の困難と戰ひ、日傭稼となり、下宿屋働きとなり、或る時はスクールボーイともなり、給仕仕事もなし、遂に大學生活に進みし迄の實際經驗談にして、讀む中に或る時は失敗談に抱腹し、或る時は苦學に同情して思はず涙を催すことあり。渡米苦學の志望者は勿論、其の他一般の讀物として大に參考となる所多し。

版元　東京巣鴨町上駒込二十二番地　振替口座東京三百五十五番　內外出版協會

最近歸朝者諸氏談話
長谷川善作筆記編輯

海外移住 新發展地案内

定價金四拾錢
郵税金四錢

本書目次

○南米の新發展地
○農業國としての亞爾然丁
○大富源伯剌西爾國
○智利國の有利事業
○南米の新事業
○南洋諸島の大富源
○南洋瓜哇の新事情
○布哇の最近狀態
○羅の天富
○南清の商工業
○滿洲の發展地
○西伯利亞の富源

日本人が其の腕だめし運だめしを爲すべき海外の新發展地は甚だ多い。活動の健兒は誰も彼も一つ地方にばかり向ふ必要はない。北米にも行け、南米にも行け、南洋にも往け、支那にも往け、其の他未拓の富源は世界の各地に今も尙ほ無限てある。出稼ぎも可い、移住も可い。農も可い、商も可い、工も可い。其の成功者の先例實績も既に甚だ多い。本書上記海外各地の狀況、渡航移住の諸心得、致富成功の捷徑等を、おの〳〵此等各地からの新歸朝者の談に依つて記述したるもの、而も其の談話者は皆現時知名の士てあるから、これを以て目下最も新らしき且つ最も確かなる海外富源案内移住案内と云ふも、決して誇言てあるまいと信ずる。

版元　東京巣鴨町上駒込二十二番地　振替口座東京三百五十五番　內外出版會

339
67

新刊

衆議院議員法學博士 戸水寛人 序
日本力行會長 島貫兵大夫 序
法學博士 末廣重雄 書翰

北米の日本人

一名 在米同胞發展事情

植村寅著

定價金八拾錢
郵稅六錢

▲『時事新報』評 ――著者曾て北米に遊び、親しく目睹し耳聞せる米國太平洋沿岸諸州に於ける本邦移住民の狀勢を記述したるものにて、最初に北米合衆國の國勢を明かにし、次に北米の日本移民情態に及び、轉じて北米移民の經濟的價値、北米に於ける日本人の地位を論じ、最後に移民排斥問題、我が政府の北米移民政策に說き及ぼし、附錄として移民に關する諸法令をも掲載したり。記叙論述細に亘り精に入り、在北米移民の情勢を闡明して遺憾なきに庶幾し。日本移民問題の喧しき今日、好資料とも好參考ともして採る所頗る多かるべし。

▲『小樽新聞』評 ――日本に取りて最も有望なる殖民地は矢張り北米合衆國を措いて他に求むべからず。本書は此の有望なる殖民地北米の一般政治産業の狀態より、彼地に於ける吾が同胞の狀態を、一々精確且つ詳密に調査記述したるものにして、今後同地に一飛躍を試みんとする者には最も安全なる案内者たるべし。尙ほ終りに北米移民の經濟的價値、移民排斥問題の眞相、吾が政府の北米移民政策を論じ、且つ卷末に日米各種の法令を附したり。

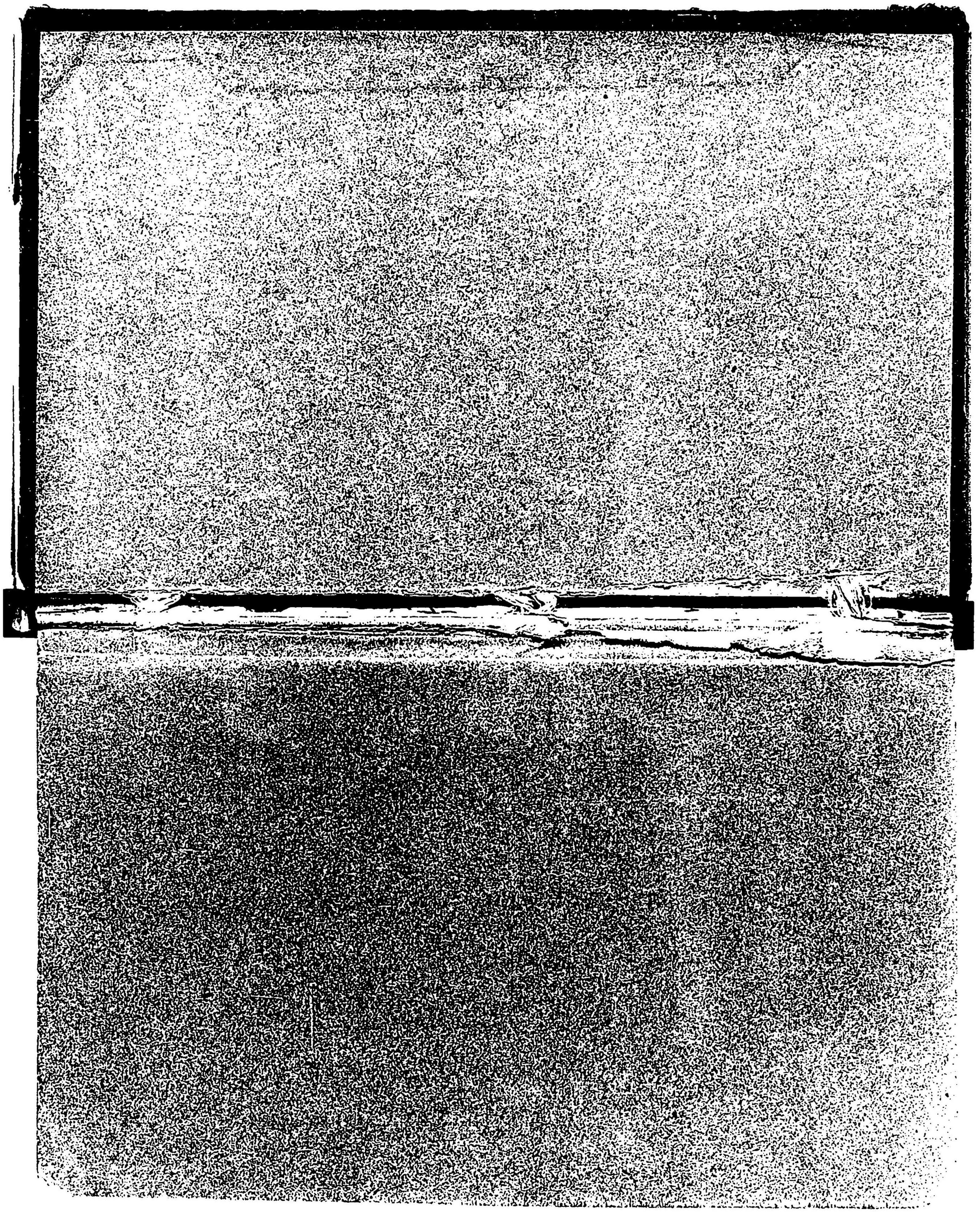
版元 東京巢鴨町上駒込二十番地 振替口座東京三百五十五番 内外出版協會

339
67

026946-000-2

339-67

米国事情

植村 寅／著

M45
ADG-0069